

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化、第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会「データサイエンス入門」(第1回) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AI)、大規模言語モデルLLM、基盤モデルFM「データサイエンス入門」(第5回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 1-3	<ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど、1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス入門」(第7回) ・データAI活用の広がり(事業活動として生産、消費、文化活動など/活用目的として仮設検証、知識発見、原因究明、計画策定など)、生成AIの応用(コンテンツ生成、翻訳・執筆支援、コーディング支援など)「データサイエンス入門」(第7回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 1-5	<ul style="list-style-type: none"> ・非構造化データ処理、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「データサイエンス入門」(第9回) ・データ解析(予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など)、データ可視化(2軸グラフ、複合グラフ、多次元、挙動・軌跡、関係性、地図上、リアルタイム可視化など)「データサイエンス入門」(第8回) ・データAI利活用の事例「データサイエンス入門」(第1回) ・データAI利活用の事例(教育、芸術、金融、ヘルスケア)「データサイエンス入門」(第3回) ・データAI利活用の事例(教育、芸術、金融、ヘルスケア)「データサイエンス入門」(第14回)
(4) 活用に当たった様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1 3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的・法的・社会的課題ELSI、個人情報保護、EU一般データ保護規則GDPR、忘れられる権利、オプトアウト)、データ倫理(ねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)、AI社会原則「データサイエンス入門」(第4回) ・データAI利活用の負の事例、生成AIの留意事項(偽情報や有害コンテンツ生成氾濫、ハルシネーションによる誤情報生成)「データサイエンス入門」(第5回) ・個人情報保護、オプトアウト、データ倫理(ねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)「データサイエンス入門」(第14回) (3-2)情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)、匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証とパスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取、情報漏洩事例の紹介「データサイエンス入門」(第6回) (3-2)個人情報保護、匿名加工情報、情報漏洩事例の紹介「データサイエンス入門」(第14回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1 2-2 2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)、代表値の性質の違い、データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値、相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)、打ち切りや欠測を含むデータ「データサイエンス入門」(第10回) ・データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)、相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーション)「データサイエンス入門」(第11回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「データサイエンス入門」(第9回) ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)、データの集計(和、平均)、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール(スプレッドシート)「データサイエンス入門」(第12回、第13回)

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> (1) AIによって変化する現実を理解できる。 (2) データ・AIがどのような技術で活用されているかを理解できる。 (3) データを読み取り、理解する方法を修得できる。 (4) データ・AIを活用する際に留意すべきことを理解できる、
--

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数												
医療福祉学部リハビリテーション学科	446	236	200	800	113	111											113	14%
医療福祉学部看護学科	241	187	80	320	61	57											61	19%
現代社会学部現代社会学科	272	83	100	408	60	57											60	15%
経営法学部経営法学科	421	76	100	404	101												101	25%
工学部知能情報システム学科	156	13	40	164	28												28	17%
工学部建築環境学科	127	28	40	164	28												28	17%
工学部臨床工学科	126	58	40	160	35	32											35	22%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	1,789	681	600	2,420	426	257	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	426	18%

【注】令和7年度の「修了者数」が空欄の学科は、現在履修中である。

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	134	人
(非常勤)	311	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

20	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	鈴木 誠
(役職名)	教務部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	教務委員会
------	-------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	東北文化大学教務委員会規程
------	---------------

⑥ 体制の目的

全学的な教育課程や授業に関する事項を審議することを目的として、教務委員会を設置している。数理・データサイエンス・AI教育プログラムについても、本委員会が主管となり、各学科・専攻から選出された委員で構成される体制のもと、全学的なプログラムの推進、運営及び改善を行っている。

⑦ 具体的な構成員

教務委員長(教務部長、医療福祉学部リハビリテーション学科教授)鈴木 誠
 教務委員(医療福祉学部リハビリテーション学科准教授) 村上 賢一
 教務委員(医療福祉学部リハビリテーション学科准教授) 北川 公路
 教務委員(医療福祉学部リハビリテーション学科教授) 高卓 輝
 教務委員(医療福祉学部リハビリテーション学科教授) 坂本 保夫
 教務委員(医療福祉学部看護学科教授) 作山 美智子
 教務委員(現代社会学部現代社会学科教授) 崔 博憲
 教務委員(経営法学部経営法学科准教授) 秋山 まゆみ
 教務委員(工学部知能情報システム学科准教授) 神村 伸一
 教務委員(工学部建築環境学科准教授) 一條 佑介
 教務委員(工学部臨床工学科教授) 工藤 剛実

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	18%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

本教育プログラムの必須科目は、全学共通基礎科目(1年配当・必修)であるため、4年間で全学生が履修する計画である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本教育プログラムの必須科目は、全学共通基礎科目(1年配当・必修)であるため、全学生が1年次に履修登録を行うことになる。

また、選択科目については、他学部履修制度により、全学部の学生が履修可能となっている。なお、同制度の詳細については、全学生に配布するハンドブックに記載するとともに、入学時のガイダンスや学生ポータルサイトなどで、学生が本教育プログラムを受講する意義とあわせて周知を図っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムの必須科目は、全学共通基礎科目(1年配当・必修科目)であるため、全学生が1年次に履修登録を行うことになる。

また、選択科目については、他学部履修制度により、全学部の学生が履修可能となっている。なお、同制度の詳細については、全学生に配布するハンドブックに記載するとともに、入学時のガイダンスや学生ポータルサイトなどで、学生が本教育プログラムを受講する意義とあわせて周知を図っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムの必須科目は、全学共通基礎科目(1年配当・必修)であるため、全学生が1年次に履修登録を行うことになる。
修得率を向上させるためのサポート体制として、授業時間内には必ず質問の時間を設けているほか、授業時間外においても、学生はGoogle Classroomを利用し、いつでも授業担当教員に個別に質問や相談をすることができ、また、授業担当教員は、学生の授業への出席を含む学修状況を把握し、必要に応じて個別に連絡するなどの対応を行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内には必ず質問の時間を設けているほか、授業時間外においても、学生はGoogle Classroomを利用して、いつでも授業担当教員に個別に質問や相談をすることができ、授業担当教員も質問等に対して迅速に対応する体制を整備している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

東北文化学園大学自己点検及び自己評価運営委員会

(責任者名) 加賀谷 豊
(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムは、令和7年度入学者から実施しているため、プログラムの履修・修得状況の点検・評価については、令和7年度終了後に実施する予定である。</p> <p>履修状況については、履修率が18%と高いとは言えない数値を示しているが、これは令和7年度にプログラムが開始されたことによるものである。本教育プログラムの必須科目は全学共通基礎科目(1年配当・必修)であり、全学生が1年次に履修登録を行うことになるため、4年間で全学生が履修する見込みである。</p>
学修成果	<p>本教育プログラムは、令和7年度入学者から実施しているため、学修成果の点検・評価については、令和7年度終了後に実施する予定である。</p> <p>本教育プログラム構成科目の授業評価アンケート結果を分析することにより、授業内容に対する学生の理解度を把握する。分析結果は教務委員会及び自己点検・評価運営委員会に報告し、本教育プログラムの点検評価・改善に活用する予定である。</p> <p>また、本教育プログラムの必須科目の修得は、全学科・専攻の卒業要件となっていることから、卒業を目指すための履修指導は、プログラム修了のための履修指導を兼ねることになるため、全学的な不断の改善が継続的に実施されることになる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	<p>本教育プログラムは、令和7年度入学者から実施しているため、授業評価アンケート等を通じた学生の内容の理解度の点検・評価については、令和7年度終了後に実施する予定である。</p> <p>本教育プログラム構成科目の授業評価アンケート結果については、教務委員会において分析を行い、必要に応じて理解度向上を図るため、授業内容等の改善に取り組む予定である。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケート結果は、大学ポータルサイト及び大学ホームページで公開されており、後輩学生や他の学生はその評価結果を履修前に確認できるようになっている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムの必須科目は、全学共通基礎科目(1年配当・必修科目)であり、全学生が1年次に履修登録を行うことが前提となっているため、4年間で全学生が履修する計画である。</p> <p>また、選択科目については、2年配当科目であることから、令和8年度に向けてホームページやハンドブックの掲載内容の充実を図り、学年初めのガイダンスや学生ポータルサイトで、学生が本教育プログラムを受講する意義とあわせて周知を行い、履修率の向上を図る予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本教育プログラムは、令和7年度入学者から実施しているため、令和10年度以降、プログラム修了者が卒業した後に進路調査を行い、活躍状況や企業等からの評価を把握できる体制を構築する予定である。</p> <p>本学の外部評価委員会において、本学のAI教育の状況等を説明し、外部委員から本教育プログラムの内容や手法について意見を聴取する予定である。 なお、実施時期については、プログラム初年度終了後の令和8年度から定期的に行う予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本学において数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるためには、学生が専攻する理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、視覚機能学、社会学、社会福祉学、経営法学、工学の各分野での活用事例などを示すことが有効だと考えている。例えば、データ分析等の演習では、各学科・専攻の専門分野に関連するデータを用い、社会で実際に活用されている分析手法を取り入れることで、専門分野の学修と有機的に結びつけ、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を実感できるよう工夫している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>履修学生の修得状況や、授業評価アンケートの結果等を参考に、授業の内容や実施方法等の見直し・改善を行う予定である。</p> <p>また、本教育プログラム実施に当たり、本学教員が中心となりMDASHリテラシーレベルに準拠した教科書を出版し、授業で使用している。この教科書は、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な内容を、あらゆる分野で学ぶ学生ができるだけやさしく身につけられることを念頭に書かれたもので、内容・水準を維持・向上しつつ、「分かりやすい」授業とする一助となっている。今後、社会の変化や生成AI等の技術の発展が見られた場合には、教科書の内容を見直すとともに、より教育効果が得られる授業内容や方法について検討を行うことを予定している。</p>

科目名	データサイエンス入門		担当者	○沼田 純希・黒後 裕彦 渡邊 晃久
科目ナンバリング	101021257			常勤・非常勤
D P	1,2		教員研究室	3218 研究室 (沼田)・3102 研究室 (黒後) 非常勤講師室 (渡邊)
学科 (専攻)	リハビリテーション学科 (理学療法専攻)		配当年次	1 年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30 時間	単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT 活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
<p>【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が利活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。</p> <p>【学習の到達目標】 1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。</p> <p>【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。</p>				
授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4 時間
2	渡邊 晃久	コンピュータと AI	予習：高校情報 I で既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることへの理解を深めること。	4 時間
3	渡邊 晃久	社会で活用される AI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習：AI・データ利活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。	4 時間
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4 時間
5	渡邊 晃久	生活の中の生成 AI	予習：生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4 時間
6	渡邊 晃久	生成 AI の活用の今と将来	予習：高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4 時間
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報 I で既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりや理解すること。	4 時間
8	沼田 純希・ 黒後 裕彦	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4 時間
9	沼田 純希	情報処理ツールの基礎 2	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4 時間
10	沼田 純希	データの散らばりを読み取る 1	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4 時間
11	沼田 純希	データの散らばりを読み取る 2	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4 時間
12	沼田 純希	データから全体を推測する 1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4 時間
13	沼田 純希	データから全体を推測する 2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4 時間
14	沼田 純希	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。	4 時間
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社			
参考書	適宜紹介する。			
備考	特になし。			

科目名	データサイエンス入門			担当者	○北川 公路・渡邊 晃久
科目ナンバリング	102021257				常勤・非常勤
D P	1,2			教員研究室	3204 (北川)・非常勤講師室 (渡邊)
学科(専攻)	リハビリテーション学科(作業療法専攻)			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術(IT)に進化と共に、人工知能(AI)の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんなAIデータ技術が利活用されているのか、データAIを活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンスAI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データAIのリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。			【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点後返却、質疑応答などを実施する。		
【学習の到達目標】 1) AIによって変化している現実を理解する、2) データAIがどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データAIを活用する際に留意すべきことを理解する。			【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半7回分(1~7)と後半7回分(8~14)の前後が入替わることがある。授業ではBYOD(自己所有のノートパソコンやタブレット型端末)を使用するので必ず持参すること。		
【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。			【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて体系的に学ぶことができる。		
			【実務家教員担当科目】 なし		
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習: 情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習: AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4時間	
2	渡邊 晃久	コンピュータとAI	予習: 高校情報Iで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習: 情報技術の発展がAI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。	4時間	
3	渡邊 晃久	社会で活用されるAI・データ	予習: AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習: AI・データ利活用の事例からデータとAIが関わり新たな価値を創出していることを理解すること。	4時間	
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習: 現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習: 社会システムで活用しているAIとビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4時間	
5	渡邊 晃久	生活の中の生成AI	予習: 生成AIの利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習: 生成AIの仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4時間	
6	渡邊 晃久	生成AIの活用の今と将来	予習: 高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習: 生成AIの利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間	
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習: AIとデータサイエンスが適用できる活用領域の広がり理解すること。	4時間	
8	北川 公路	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎1	予習: 予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間	
9	北川 公路	情報処理ツールの基礎2	予習: 予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間	
10	北川 公路	データの散らばりを読み取る1	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間	
11	北川 公路	データの散らばりを読み取る2	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間	
12	北川 公路	データから全体を推測する1	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間	
13	北川 公路	データから全体を推測する2	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間	
14	北川 公路	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習: 各専門分野において、高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習: 各専門分野におけるAI・データサイエンスの利活用の事例(留意事項を含む)を理解しておくこと。	4時間	
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心のAI社会とデータサイエンス—MDASHリテラシーレベル準拠—」コロナ社				
参考書	適宜紹介する。				
備考	特になし。				

科目名	データサイエンス入門			担当者	○柴田 寛・中村 哲也 渡邊 晃久
科目ナンバリング	103021257				常勤・非常勤
D P	2,4			教員研究室	1413 (柴田)・中村 (1427) 非常勤講師室 (渡邊)
学科 (専攻)	リハビリテーション学科 (言語聴覚学専攻)			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
<p>【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が利活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。</p> <p>【学習の到達目標】 1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。</p> <p>【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。</p>					
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4時間	
2	渡邊 晃久	コンピュータと AI	予習：高校情報 I で既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。	4時間	
3	渡邊 晃久	社会で活用される AI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習：AI・データ利活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。	4時間	
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4時間	
5	渡邊 晃久	生活の中の生成 AI	予習：生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4時間	
6	渡邊 晃久	生成 AI の活用の今と将来	予習：高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間	
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報 I で既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。	4時間	
8	中村 哲也	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間	
9	中村 哲也	情報処理ツールの基礎 2	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間	
10	柴田 寛	データの散らばりを読み取る 1	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間	
11	柴田 寛	データの散らばりを読み取る 2	予習：高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間	
12	柴田 寛	データから全体を推測する 1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間	
13	柴田 寛	データから全体を推測する 2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間	
14	中村 哲也	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。	4時間	
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社				
参考書	適宜紹介する。				
備考	特になし。				

科目名	データサイエンス入門			担当者	○辻川 寛・渡邊 晃久
科目ナンバリング	104021257				常勤・非常勤
D P	1,2			教員研究室	4203 (辻川)・非常勤講師室 (渡邊)
学科(専攻)	リハビリテーション学科(視覚機能学専攻)			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
現代の高度な情報社会では、情報技術(IT)に進化と共に、人工知能(AI)の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんなAIデータ技術が活用されているのか、データAIを活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンスAI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データAIのリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。		Google ClassroomやGoogle Formで課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
1) AIによって変化している現実を理解する、2) データAIがどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データAIを活用する際に留意すべきことを理解する。		学部・学科・専攻により、授業計画の前半7回分(1~7)と後半7回分(8~14)の前後が入替わることがある。授業ではBYOD(自己所有のノートパソコンやタブレット型端末)を使用するので必ず持参すること。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
全学共通のルーブリック評価に基づく。		数理・データサイエンス・AI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて体系的に学ぶことができる。			
		【実務家教員担当科目】			
		なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。		4時間
2	渡邊 晃久	コンピュータとAI	予習：高校情報Iで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展がAI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。		4時間
3	渡邊 晃久	社会で活用されるAI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習：情報技術の発展がAI・データとAIが関わり新たな価値を創出していることを理解すること。		4時間
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用しているAIとビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。		4時間
5	渡邊 晃久	生活の中の生成AI	予習：生成AIの利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成AIの仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。		4時間
6	渡邊 晃久	生成AIの活用の今と将来	予習：高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成AIの利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。		4時間
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報Iで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AIとデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。		4時間
8	辻川 寛	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎1	予習：予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。		4時間
9	辻川 寛	情報処理ツールの基礎2	予習：予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。		4時間
10	辻川 寛	データの散らばりを読み取る1	予習：高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。		4時間
11	辻川 寛	データの散らばりを読み取る2	予習：高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。		4時間
12	辻川 寛	データから全体を推測する1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。		4時間
13	辻川 寛	データから全体を推測する2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。		4時間
14	辻川 寛	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野におけるAI・データサイエンスの利活用の事例(留意事項を含む)を理解しておくこと。		4時間
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心のAI社会とデータサイエンス-MDASHリテラシーレベル準拠-」コロナ社				
参考書	適宜紹介する。				
備考	特になし。				

科目名	データサイエンス入門			担当者	○村上 大介・渡邊 晃久 鈴木真澄美
科目ナンバリング	105021257				常勤・非常勤
D P	2			教員研究室	3116 (村上)・渡邊・鈴木 (非常勤講師室)
学科 (専攻)	看護学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科IIでは、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんなAIデータ技術が利活用されているのか、データAIを活用する際に何に留意すべきかを理解する。授業は大学が定める数理データサイエンスAI教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データAIのリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。		Google ClassroomやGoogle Formで課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
1) AIによって変化している現実を理解する、2) データAIがどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データAIを活用する際に留意すべきことを理解する。		学部・学科・専攻により、授業計画の前半7回分 (1～7) と後半7回分 (8～14) の前後が入替わることがある。授業ではBYOD (自己所有のノートパソコンやタブレット型端末) を使用するの必ず持参すること。			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
全学共通のルーブリック評価に基づく。		数理・データサイエンス・AI教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて体系的に学ぶことができる。			
【実務家教員担当科目】		なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習: 情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習: AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4時間	
2	渡邊 晃久	コンピュータとAI	予習: 高校情報Iで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習: 情報技術の発展がAI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。	4時間	
3	渡邊 晃久	社会で活用されるAI・データ	予習: AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習: 生成AIの利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間	
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習: 現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習: 社会システムで活用しているAIとビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4時間	
5	渡邊 晃久	生活の中の生成AI	予習: 生成AIの利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習: 生成AIの仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4時間	
6	渡邊 晃久	生成AIの活用の今と将来	予習: 高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習: 生成AIの利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間	
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習: AIとデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。	4時間	
8	村上 大介・ 鈴木真澄美	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎1	予習: 予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間	
9	鈴木真澄美	情報処理ツールの基礎2	予習: 予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間	
10	鈴木真澄美	データの散らばりを読み取る1	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間	
11	鈴木真澄美	データの散らばりを読み取る2	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間	
12	鈴木真澄美	データから全体を推測する1	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間	
13	鈴木真澄美	データから全体を推測する2	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間	
14	村上 大介・ 鈴木真澄美	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習: 各専門分野において、高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習: 各専門分野におけるAI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。	4時間	
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心のAI社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社				
参考書	適宜紹介する。				
備考	特になし。				

科目名	データサイエンス入門		担当者	○山尾 貴則・佐藤 一 森坂 太一
科目ナンバリング	1120212527		常勤・非常勤	
D P	1,4		教員研究室	3304 (山尾)・非常勤講師室 (佐藤・森坂)
学科(専攻)	現代社会学科(共通)		配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位 必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】		
<p>現代の高度な情報社会では、情報技術(IT)に進化と共に、人工知能(AI)の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんなAIデータ技術が利活用されているのか、データAIを活用する際に何に留意すべきかを理解する。</p> <p>授業は大学が定める数理データサイエンスAI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて、1)データサイエンスの基礎知識、2)AI技術の活用事例、3)データの収集・理解・分析方法、4)データAIのリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。</p>		<p>Google ClassroomやGoogle Formで課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。</p>		
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】		
<p>1) AIによって変化している現実を理解する、2) データAIがどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データAIを活用する際に留意すべきことを理解する。</p>		<p>学部・学科・専攻により、授業計画の前半7回分(1~7)と後半7回分(8~14)の前後が入替わることがある。授業ではBYOD(自己所有のノートパソコンやタブレット型端末)を使用するので必ず持参すること。</p>		
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】		
<p>全学共通のルーブリック評価に基づく。</p>		<p>数理・データサイエンス・AI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて体系的に学ぶことができる。</p>		
【実務家教員担当科目】		なし		
授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	佐藤 一	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4時間
2	佐藤 一	コンピュータとAI	予習：高校情報Iで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展がAI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。	4時間
3	佐藤 一	社会で活用されるAI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習：AI・データ活用事例からデータとAIが関わり新たな価値を創出していることを理解すること。	4時間
4	佐藤 一	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用しているAIとビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4時間
5	佐藤 一	生活の中の生成AI	予習：生成AIの利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成AIの仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4時間
6	佐藤 一	生成AIの活用の今と将来	予習：高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成AIの利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間
7	佐藤 一	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報Iで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AIとデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。	4時間
8	山尾 貴則 森坂 太一	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎1	予習：予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間
9	山尾 貴則 森坂 太一	情報処理ツールの基礎2	予習：予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間
10	山尾 貴則 森坂 太一	データの散らばりを読み取る1	予習：高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間
11	山尾 貴則 森坂 太一	データの散らばりを読み取る2	予習：高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間
12	山尾 貴則 森坂 太一	データから全体を推測する1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間
13	山尾 貴則 森坂 太一	データから全体を推測する2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間
14	山尾 貴則 森坂 太一	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野におけるAI・データサイエンスの利活用の事例(留意事項を含む)を理解しておくこと。	4時間
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心のAI社会とデータサイエンス-MDASHリテラシーレベル準拠-」コロナ社			
参考書	適宜紹介する。			
備考	特になし。			

科目名	データサイエンス入門			担当者	○河本 進・久保田茂裕 渡邊 晃久
科目ナンバリング	1080212527				常勤・非常勤
D P	1,4			教員研究室	1228 (河本)・1227 (久保田)・ 非常勤講師室 (渡邊)
学科 (専攻)	経営法学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】 現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。 授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。				【課題等のフィードバック方法】 Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点後返却、質疑応答などを実施する。 【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半7回分 (1~7) と後半7回分 (8~14) の前後が入替わることがある。授業ではBYOD (自己所有のノートパソコンやタブレット型端末) を使用するので必ず持参すること。 【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて体系的に学ぶことができる。	
【学習の到達目標】 1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。				【実務家教員担当科目】 なし	
【成績評価方法】 全学共通のルーブリック評価に基づく。					

授 業 計 画

回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	渡邊 晃久	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習：情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習：AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4時間
2	渡邊 晃久	コンピュータとAI	予習：高校情報Iで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習：情報技術の発展がAI・データによる社会変化を生む基盤であることへの理解を深めること。	4時間
3	渡邊 晃久	社会で活用されるAI・データ	予習：AI・データの活用領域の広がり活用方法を捉えておくこと。 復習：AI・データ利活用の事例からデータとAIが関わり新たな価値を創出していることを理解すること。	4時間
4	渡邊 晃久	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習：現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習：社会システムで活用しているAIとビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4時間
5	渡邊 晃久	生活の中の生成AI	予習：生成AIの利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習：生成AIの仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4時間
6	渡邊 晃久	生成AIの活用の今と将来	予習：高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習：生成AIの利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間
7	渡邊 晃久	社会が求めるデータサイエンス	予習：高校情報Iで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習：AIとデータサイエンスが適用できる活用領域の広がり理解すること。	4時間
8	河本 進・久保田茂裕	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎1	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間
9	河本 進・久保田茂裕	情報処理ツールの基礎2	予習：予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習：情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間
10	河本 進・久保田茂裕	データの散らばりを読み取る1	予習：高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間
11	河本 進・久保田茂裕	データの散らばりを読み取る2	予習：高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習：データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間
12	河本 進・久保田茂裕	データから全体を推測する1	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間
13	河本 進・久保田茂裕	データから全体を推測する2	予習：予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習：表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間
14	河本 進・久保田茂裕	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習：各専門分野において、高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習：各専門分野におけるAI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。	4時間
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心のAI社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社			
参考書	適宜紹介する。			
備考	特になし。			

科目名	データサイエンス入門		担当者	○中島 千尋・佐藤 一
科目ナンバリング	1090212527			常勤・非常勤
D P	2,4		教員研究室	1406 (中島)・非常勤講師室 (佐藤)
学科(専攻)	知能情報システム学科		配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位
				必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】		
<p>現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科目では、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんな AI データ技術が活用されているのか、データ AI を活用する際に何に留意すべきかを理解する。</p> <p>授業は大学が定める数理データサイエンス AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI 技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データ AI のリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。</p>		<p>Google Classroom や Google Form で課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。</p>		
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】		
<p>1) AI によって変化している現実を理解する、2) データ AI がどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データ AI を活用する際に留意すべきことを理解する。</p>		<p>学部・学科・専攻により、授業計画の前半 7 回分 (1～7) と後半 7 回分 (8～14) の前後が入替わることがある。授業では BYOD (自己所有のノートパソコンやタブレット型端末) を使用するので必ず持参すること。</p>		
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】		
<p>全学共通のルーブリック評価に基づく。</p>		<p>数理・データサイエンス・AI 教育カリキュラム (リテラシーレベル) に基づいて体系的に学ぶことができる。</p>		
【実務家教員担当科目】		なし		
授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	佐藤 一	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習: 情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習: AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4時間
2	佐藤 一	コンピュータと AI	予習: 高校情報 I で既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習: 情報技術の発展が AI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。	4時間
3	佐藤 一	社会で活用される AI・データ	予習: AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習: AI・データ活用の事例からデータと AI が関わり新たな価値を創出していることを理解すること。	4時間
4	佐藤 一	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習: 現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習: 社会システムで活用している AI とビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4時間
5	佐藤 一	生活の中の生成 AI	予習: 生成 AI の利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習: 生成 AI の仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4時間
6	佐藤 一	生成 AI の活用の今と将来	予習: 高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習: 生成 AI の利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間
7	佐藤 一	社会が求めるデータサイエンス	予習: 高校情報 I で既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習: AI とデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりや理解すること。	4時間
8	中島 千尋	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎 1	予習: 予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間
9	中島 千尋	情報処理ツールの基礎 2	予習: 予め主な情報処理ツール (ワープロ、表計算、プレゼンテーション) の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間
10	中島 千尋	データの散らばりを読み取る 1	予習: 高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間
11	中島 千尋	データの散らばりを読み取る 2	予習: 高校情報 I で既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間
12	中島 千尋	データから全体を推測する 1	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間
13	中島 千尋	データから全体を推測する 2	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間
14	中島 千尋	AI・データ活用の分野別諸問題	予習: 各専門分野において、高校情報 I で既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習: 各専門分野における AI・データサイエンスの利活用の事例 (留意事項を含む) を理解しておくこと。	4時間
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心の AI 社会とデータサイエンス - MDASH リテラシーレベル準拠 -」コロナ社			
参考書	適宜紹介する。			
備考	特になし。			

科目名	データサイエンス入門		担当者	○須藤 諭・佐藤 一 福井 啓太
科目ナンバリング	1100212522			常勤・非常勤
D P	2		教員研究室	1318 (須藤)・非常勤講師室 (佐藤・福井)
学科(専攻)	建築環境学科		配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし			
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない		「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】		
<p>現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科IIでは、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんなAIデータ技術が利活用されているのか、データAIを活用する際に何に留意すべきかを理解する。</p> <p>授業は大学が定める数理データサイエンスAI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データAIのリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。</p> <p>【学習の到達目標】</p> <p>1) AIによって変化している現実を理解する、2) データAIがどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データAIを活用する際に留意すべきことを理解する。</p> <p>【成績評価方法】</p> <p>全学共通のルーブリック評価に基づく。</p>		<p>Google ClassroomやGoogle Formで課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】</p> <p>学部・学科・専攻により、授業計画の前半7回分(1~7)と後半7回分(8~14)の前後が入替わることがある。授業ではBYOD(自己所有のノートパソコンやタブレット型端末)を使用するので必ず持参すること。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】</p> <p>数理・データサイエンス・AI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて体系的に学ぶことができる。</p> <p>【実務家教員担当科目】</p> <p>なし</p>		
授 業 計 画				
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間	
			予習・復習	学修時間
1	佐藤 一	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習: 情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習: AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4時間
2	佐藤 一	コンピュータとAI	予習: 高校情報Iで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習: 情報技術の発展がAI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。	4時間
3	佐藤 一	社会で活用されるAI・データ	予習: AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習: AI・データ活用の事例からデータとAIが関わり新たな価値を創出していることを理解すること。	4時間
4	佐藤 一	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習: 現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習: 社会システムで活用しているAIとビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4時間
5	佐藤 一	生活の中の生成AI	予習: 生成AIの利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習: 生成AIの仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4時間
6	佐藤 一	生成AIの活用の今と将来	予習: 高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習: 生成AIの利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間
7	佐藤 一	社会が求めるデータサイエンス	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習: AIとデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。	4時間
8	須藤 諭・ 福井 啓太	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎1	予習: 予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間
9	須藤 諭・ 福井 啓太	情報処理ツールの基礎2	予習: 予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間
10	須藤 諭・ 福井 啓太	データの散らばりを読み取る1	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間
11	須藤 諭・ 福井 啓太	データの散らばりを読み取る2	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間
12	須藤 諭・ 福井 啓太	データから全体を推測する1	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間
13	須藤 諭・ 福井 啓太	データから全体を推測する2	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間
14	須藤 諭・ 福井 啓太	AI・データ活用の分野別諸問題	予習: 各専門分野において、高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習: 各専門分野におけるAI・データサイエンスの利活用の事例(留意事項を含む)を理解しておくこと。	4時間
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心のAI社会とデータサイエンス-MDASHリテラシーレベル準拠-」コロナ社			
参考書	適宜紹介する。			
備考	特になし。			

科目名	データサイエンス入門			担当者	○相澤 康弘・佐藤 一 鈴木真澄美
科目ナンバリング	1110312329				常勤・非常勤
D P	1,2			教員研究室	1205 (相澤)・非常勤講師室 (佐藤・鈴木)
学科(専攻)	臨床工学科			配当年次	1年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 <input type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>現代の高度な情報社会では、情報技術 (IT) に進化と共に、人工知能 (AI) の急速な発展によりビッグデータを活用した様々なサービスが生まれ、社会が大きく変化してきている。本科IIでは、AI・データサイエンスが社会に変化をもたらしている現実を認識し、どのようにデータを読み取り理解するのか、どんなAIデータ技術が利活用されているのか、データAIを活用する際に何に留意すべきかを理解する。</p> <p>授業は大学が定める数理データサイエンスAI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて、1) データサイエンスの基礎知識、2) AI技術の活用事例、3) データの収集・理解・分析方法、4) データAIのリスクと倫理、以上を体系的に学ぶ。</p>		<p>Google ClassroomやGoogle Formで課題出題、提出、採点后返却、質疑応答などを実施する。</p> <p>【履修上の注意・予習・復習について】 学部・学科・専攻により、授業計画の前半7回分(1~7)と後半7回分(8~14)の前後が入替わることがある。授業ではBYOD(自己所有のノートパソコンやタブレット型端末)を使用するので必ず持参すること。</p> <p>【受講して得られる効果・メリット、その他】 数理・データサイエンス・AI教育カリキュラム(リテラシーレベル)に基づいて体系的に学ぶことができる。</p> <p>【実務家教員担当科目】 なし</p>			
【学習の到達目標】		【成績評価方法】			
<p>1) AIによって変化している現実を理解する、2) データAIがどのような技術で活用されているかを理解する、3) データを読み取り理解する方法を理解する、4) データAIを活用する際に留意すべきことを理解する。</p>		<p>全学共通のルーブリック評価に基づく。</p>			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	佐藤 一	ガイダンス AI・データがもたらす社会変動	予習: 情報社会における社会変動を多様な視点で捉えて俯瞰しておくこと。 復習: AI・データの発展による活用分野を理解すること。	4時間	
2	佐藤 一	コンピュータとAI	予習: 高校情報Iで既習の内容を大まかに捉えておくこと。 復習: 情報技術の発展がAI・データによる社会変化を生む基盤であることの理解を深めること。	4時間	
3	佐藤 一	社会で活用されるAI・データ	予習: AI・データの活用領域の広がりや活用法を捉えておくこと。 復習: AI・データ利活用の事例からデータとAIが関わり新たな価値を創出していることを理解すること。	4時間	
4	佐藤 一	AI・データ社会がもたらす諸問題	予習: 現在の社会で起きている変化を見据えてビッグデータを活用している分野と活用法を調べておくこと。 復習: 社会システムで活用しているAIとビッグデータの関係性を事例と共に理解すること。	4時間	
5	佐藤 一	生活の中の生成AI	予習: 生成AIの利便性や留意すべきことを予め調べておくこと。可能なら実際に使用してみるとよい。 復習: 生成AIの仕組みとプロンプトの重要性を体験的に理解すること。	4時間	
6	佐藤 一	生成AIの活用の今と将来	予習: 高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を整理し確認しておくこと。 復習: 生成AIの利活用にあたり具体的な留意事項を事例を含めて理解しておくこと。	4時間	
7	佐藤 一	社会が求めるデータサイエンス	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集と分析について予め確認しておくこと。 復習: AIとデータサイエンスが適用できる活用領域の広がりを理解すること。	4時間	
8	相澤 康弘・ 鈴木真澄美	学修分野におけるデータサイエンスのガイダンスと情報処理ツールの基礎1	予習: 予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間	
9	相澤 康弘・ 鈴木真澄美	情報処理ツールの基礎2	予習: 予め主な情報処理ツール(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)の操作に慣れておくこと。 復習: 情報やデータを加工・編集・提示する情報処理ツールでの情報の扱いと処理機能を理解すること。	4時間	
10	相澤 康弘・ 鈴木真澄美	データの散らばりを読み取る1	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間	
11	相澤 康弘・ 鈴木真澄美	データの散らばりを読み取る2	予習: 高校情報Iで既習のデータの収集とデータの分析について予め確認しておくこと。 復習: データを適切に読み解き、かつデータを適切に説明するための手法を理解すること。	4時間	
12	相澤 康弘・ 鈴木真澄美	データから全体を推測する1	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間	
13	相澤 康弘・ 鈴木真澄美	データから全体を推測する2	予習: 予め表計算ソフトで表形式のデータ等を扱えるようにすること。 復習: 表計算ソフトで機械判別可能なデータを利用してデータの表現と分析ができるようにすること。	4時間	
14	相澤 康弘・ 鈴木真澄美	AI・データ利活用の分野別諸問題	予習: 各専門分野において、高校情報Iで既習の情報社会における諸問題を予め整理し確認しておくこと。 復習: 各専門分野におけるAI・データサイエンスの利活用の事例(留意事項を含む)を理解しておくこと。	4時間	
教科書	行場、高谷、渡邊共著「人間中心のAI社会とデータサイエンス-MDASHリテラシーレベル準拠-」コロナ社				
参考書	適宜紹介する。				
備考	特になし。				

科目名	プログラミング方法論 I			担当者	沈 紅
科目ナンバリング	1090322540				常勤
D P	1,3			教員研究室	1411
学科(専攻)	知能情報システム学科			配当年次	1年次・後期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単 位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当しない
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>プログラミングとは、計算の手続きをプログラミング言語と呼ばれる形式言語を用いて記述する知的な活動のことである。プログラムを書くために、問題を解くためのアルゴリズムとアルゴリズムが利用するデータ構造を決めなければならないほかに、何らかのプログラミング言語を用いて表現しなければならない。本講義では、特定のプログラミング言語をこと細かに解説する方法は取らないで、実際の問題から如何にプログラミングを行うことに焦点を当て、プログラミングの基本且つ重要な技能を方法論として教授する。</p>		<p>レポートの共通問題点については授業中に講評する。個別の問題点はレポートに記す</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>プログラミングの基本技能を身につけること。</p>		<p>1. 授業内容および演習問題に対して主体的な取り組みが期待される。 2. この授業は毎回の積み重ねで行われる。従って前回の授業を休んだまま次の講義を聞いても解らないので注意すること。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>レポート 40% およびまとめテスト 60% により評価を行う。</p>		<p>本講義を受講することにより、プログラミングの基本を理解することができる。</p>			
【実務家教員担当科目】		該当なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習	学修時間	
1	沈	コンピュータハードウェアとプログラミング言語	シラバス通読の上、準備学習を行う。授業中に配布する課題を復習	4時間	
2	沈	プログラミングの基本	配布プリントを参考に、プログラミングの基本について予習、復習する	4時間	
3	沈	プログラミング入門－決定木	配布プリントを参考に、プログラミングの決定木について予習、復習する	4時間	
4	沈	プログラミング入門－より複雑な決定木	配布プリントを参考に、プログラミングの決定木について予習、復習する	4時間	
5	沈	文	配布プリントを参考に、プログラミングの文について予習、復習する	4時間	
6	沈	プログラムの効率－何度も繰り返し返す (1)	配布プリントを参考に、プログラミングの繰り返し文について予習、復習する	4時間	
7	沈	プログラムの効率－何度も繰り返し返す (2)	配布プリントを参考に、プログラミングの繰り返し文について予習、復習する	4時間	
8	沈	プログラムの効率－何度も繰り返し返す (3)	配布プリントを参考に、プログラミングの繰り返し文について予習、復習する	4時間	
9	沈	プログラムの虫探し－トレース	配布プリントを参考に、プログラミングのトレースについて予習、復習する	4時間	
10	沈	データの読み取りと記憶 (1)	配布プリントを参考に、プログラミングの配列について予習、復習する	4時間	
11	沈	データの読み取りと記憶 (2)	配布プリントを参考に、プログラミングの配列について予習、復習する	4時間	
12	沈	プログラムの読みやすさ	配布プリントを参考に、プログラミングの配列について予習、復習する	4時間	
13	沈	成長するプログラム	配布プリントを参考に、プログラムの実行について予習、復習する	4時間	
14	沈	まとめ	配布プリントを参考に、プログラミングのまとめについて予習、復習する	4時間	
教科書	プリントを配布する。				
参考書	授業時間に適宜指示				
備考	なし				

科目名	プログラミング方法論 II			担当者	鈴木 伸夫
科目ナンバリング	1090222046				常勤
D P	1,3			教員研究室	1410
学科(専攻)	知能情報システム学科			配当年次	2年次・前期
授業形式	講義	授業時間	30時間	単位	必修 2単位
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 該当なし				
ICT活用	<input type="checkbox"/> 双方向型授業 <input type="checkbox"/> 自主学习支援 <input checked="" type="checkbox"/> 該当しない			「数理・データサイエンス・AI」授業	該当する
【授業内容】		【課題等のフィードバック方法】			
<p>手続き指向プログラミング言語の代表であるC言語を用いてプログラミングに関する基礎的な概念の習得を目指す。前半はトップダウン設計、関数について講義する。後半はデータ構造について講義する。メモリ管理についても講義する。</p>		<p>毎日実施するチェック問題を次回講義開始時に返却する。</p>			
【学習の到達目標】		【履修上の注意・予習・復習について】			
<p>プログラミングに必要な以下の概念を習得する。(1) 基本的なデータ型、演算子、式。(2) 制御の流れ(分岐、繰り返し)。(3) 機能分割(関数)。(4) データ構造(構造体)。(5) 入出力。(6) メモリ管理</p>		<p>プログラミング方法論Iを履修した学生を対象とした内容である。プログラミング基礎演習IIを履修する学生は本講義を履修することを強く推奨する。本講義の内容は全てウェブサイト上にアップロードしている(自宅から閲覧可能)。遅くとも授業の一週間前までには最終版をアップロードするので各自予習復習を怠らないこと。</p>			
【成績評価方法】		【受講して得られる効果・メリット、その他】			
<p>中間試験(50%)および期末試験(50%)による。持ち込みは不可である。2/3以上出席しない学生は単位取得放棄と見做す。期末試験終了後、不合格の学生に対しては再試験、レポート課題などの救済処置は一切行わない(正当な理由により期末試験を受講できない場合は追試験を実施する)。</p>		<p>プログラミングは全て情報系科目の基盤となる。また、情報系の資格試験の内容も含まれる。</p>			
		【実務家教員担当科目】			
		該当なし			
授 業 計 画					
回	担当教員	学修内容	学修課題・必要な学修時間		
			予習・復習		学修時間
1	鈴木 伸夫	トップダウン設計、ルーチン(関数)	Webサイトで配布しているトップダウン設計、ルーチン(関数)の予習と復習		4時間
2	鈴木 伸夫	型、関数と配列	Webサイトで配布している型、関数と配列の予習と復習		4時間
3	鈴木 伸夫	再帰関数、関数原型宣言、プリプロセッサ、ヘッダファイル、スコープ	Webサイトで配布している再帰関数、関数原型宣言、プリプロセッサ、ヘッダファイル、スコープの予習と復習		4時間
4	鈴木 伸夫	関数のまとめ	第4回までの関数に関する復習		4時間
5	鈴木 伸夫	文字列	Webサイトで配布している文字列の予習と復習		4時間
6	鈴木 伸夫	アドレスとポインタ	Webサイトで配布しているアドレスとポインタの予習と復習		4時間
7	鈴木 伸夫	関数とポインタ	Webサイトで配布している関数とポインタの予習と復習		4時間
8	鈴木 伸夫	ポインタのまとめ	第8回までのポインタに関する復習		4時間
9	鈴木 伸夫	中間試験	中間試験の範囲に関する試験勉強と復習		4時間
10	鈴木 伸夫	メモリの管理	Webサイトで配布しているメモリの管理の予習と復習		4時間
11	鈴木 伸夫	構造体の基礎	Webサイトで配布している構造体の基礎の予習と復習		4時間
12	鈴木 伸夫	構造体とポインタ、自己参照的構造体	Webサイトで配布している構造体とポインタ、自己参照的構造体の予習と復習		4時間
13	鈴木 伸夫	分割コンパイル	Webサイトで配布している分割コンパイルの予習と復習		4時間
14	鈴木 伸夫	構造体のまとめ	第14回までの内容全体の復習と期末試験のための復習		4時間
教科書	柴田望洋「新版 明解C言語 入門編」SoftBank. (プログラミング方法論I、プログラミング基礎演習I・IIと共通である)				
参考書	カーニハン、リッチー「プログラミング言語C第2版」共立出版 前橋和弥「C言語ポインタ完全制覇」技術評論社				
備考	なし。				

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学用

【医療福祉学部】

〔リハビリテーション学科・理学療法専攻〕

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備考
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度		ナンバー	必修	選択	
基礎科目	探究・理解プロジェクト	輝ける者	1	01	01	1	25	1	1通		2	選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	01	01	1	25	2	1前・1後		2	
		現代社会を視る	1	01	01	1	25	3	1前・1後		2	
		生活の中の科学	1	01	01	1	25	4	1前・1後		2	
		経済・法律・世界を視る	1	01	01	1	25	5	1前・1後		2	
		社会活動入門	1	01	01	1	25	6	1前・1後		2	
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	01	02	1	25	7	1前	2		選択科目5科目から1単位以上修得すること。
		統計解析	1	01	02	1	25	8	4前	1		
		医療情報科学	1	01	02	1	25	9	1後		1	
		医療のための基礎数学	1	01	02	1	25	10	1前		2	
		生活の中の物理学	1	01	02	1	25	11	1前		2	
		生活の中の化学	1	01	02	1	25	12	1前		2	
		生活の中の生物学	1	01	02	1	25	13	1前		2	
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	01	02	1	25	14	1通	2		
		スポーツ実技	1	01	02	1	25	15	1前		1	
		心理学概論	1	01	02	1	25	16	1後		2	
		生命倫理学	1	01	02	1	25	17	1後	1		
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1	01	02	1	25	18	1前	1		
		英語コミュニケーションⅡ	1	01	02	1	25	19	1後	1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	01	02	1	25	20	1前		1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	01	02	1	25	21	1後		1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1	01	02	1	25	22	1前		1	
		中国語コミュニケーションⅡ	1	01	02	1	25	23	1後		1	
		海外研修	1	01	02	1	25	24	1通		2	
		コミュニケーション論	1	01	02	1	25	25	1前		2	
	人と生活	健康科学	1	01	02	1	25	27	1前	1		選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		教育学	1	01	02	1	25	28	1後		2	
		教育方法論	1	01	02	1	25	29	2前		2	
		憲法と法律	1	01	02	1	25	30	2前		2	
		文化人類学	1	01	02	1	25	31	2前		2	
東北の歴史		1	01	02	1	25	32	2前		2		
現代史		1	01	02	1	25	33	2前		2		
哲学		1	01	02	1	25	34	1後		2		
ジェンダー論		1	01	02	1	25	35	1後		2		
生活と地球科学		1	01	02	1	25	36	2後		2		
生活と経済	1	01	02	1	25	37	2後		2			
教養としての政治学	1	01	02	1	25	38	2後		2			
基礎科目の合計								9	56	0	20単位以上修得すること。	
専門基礎科目	の発達	解剖学Ⅰ	1	01	03	2	25	39	1前	2		
		解剖学実習	1	01	03	2	25	40	1前	1		
		解剖学Ⅱ	1	01	03	2	25	41	1後	2		
		基礎運動学	1	01	03	2	25	42	1前	2		
		身体運動学演習	1	01	03	2	25	43	1後	1		
		運動制御論	1	01	03	2	25	44	2前	1		
		身体運動学実習	1	01	03	2	25	45	2後	1		
		生理学Ⅰ	1	01	03	2	25	46	1前	2		
		生理学Ⅱ	1	01	03	2	25	47	1後	2		
		人間生涯発達学	1	01	03	2	25	48	2前	2		
	復疾病と障害の促進の成り立ち及び回復	臨床医学総論	1	01	03	2	25	49	1後	2		
		内部障害系病学	1	01	03	2	25	50	2前	2		
		神経障害系病学	1	01	03	2	25	51	2前	2		
		運動器障害系病学	1	01	03	2	25	52	2前	2		
		精神障害系病学	1	01	03	2	25	53	2前	2		
		発達障害系病学	1	01	03	2	25	54	2後	1		
		栄養学概論	1	01	03	2	25	55	2後	1		
		救命救急学演習	1	01	03	2	25	56	2後	1		
		臨床心理学	1	01	03	2	25	57	2前	2		
		リハビリテーション医学	1	01	03	2	25	58	1後	2		
	病態薬理学	1	01	03	2	25	59	3前	1			
	チーム医療福祉とリハビリの理念	リハビリテーション概論	1	01	03	2	25	60	1前		1	選択科目4科目から1単位以上修得すること。
		チーム医療福祉論	1	01	03	2	25	61	1後	1		
		保健医療福祉概論	1	01	03	2	25	62	2後	2		
		専門職連携論	1	01	03	2	25	63	3前	2		
		専門職連携セミナー	1	01	03	2	25	64	3後		1	
		公衆衛生学	1	01	03	2	25	65	3前		1	
		医療経済論	1	01	03	2	25	66	2後		1	
		リハビリテーション心理	1	01	03	2	25	67	3前		1	
		重度障がい者自立生活支援演習	1	01	03	2	25	68	1・2・3・4後		1	
専門基礎分野の合計								39	6	0	40単位以上修得すること。	

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】

〔リハビリテーション学科・理学療法学専攻〕

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単 位 数			備 考	
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度		ナンバー	必修	選択		自由
専門科目	基礎理学療法学	理学療法学概論	1	01	04	2	25	69	1前	2			
		理学療法学基礎演習Ⅰ	1	01	04	2	25	70	1前	1			
		理学療法学基礎演習Ⅱ	1	01	04	2	25	71	1後	1			
		理学療法障害論	1	01	04	2	25	72	3前	2			
	管理理学療法	理学療法管理学	1	01	04	3	25	73	3後	2			
	理学療法評価学	理学療法評価学演習Ⅰ	1	01	04	3	25	74	1後	2			
理学療法評価学演習Ⅱ		1	01	04	3	25	75	2前	2				
運動動作分析演習		1	01	04	3	25	76	2前	1				
臨床動作分析演習		1	01	04	3	25	77	2後	1				
	理学療法治療学	運動療法学演習	1	01	04	3	25	78	2前	2			
運動器理学療法演習Ⅰ		1	01	04	3	25	79	2後	1				
運動器理学療法演習Ⅱ		1	01	04	3	25	80	3前	1				
運動器理学療法演習Ⅲ		1	01	04	3	25	81	3後	1				
小児理学療法演習Ⅰ		1	01	04	3	25	82	2後	1				
小児理学療法演習Ⅱ		1	01	04	3	25	83	3前	1				
神経理学療法演習Ⅰ		1	01	04	3	25	84	2後	1				
神経理学療法演習Ⅱ		1	01	04	3	25	85	3前	1				
神経理学療法演習Ⅲ		1	01	04	3	25	86	3後	1				
内部障害理学療法演習Ⅰ		1	01	04	3	25	87	2後	1				
内部障害理学療法演習Ⅱ		1	01	04	3	25	88	3前	1				
内部障害理学療法演習Ⅲ		1	01	04	3	25	89	3後	1				
総合理学療法学演習		1	01	04	3	25	90	3後	1				
義肢装具学演習		1	01	04	3	25	91	2後	1				
義肢装具学実習		1	01	04	3	25	92	3前	1				
物理療法学演習		1	01	04	3	25	93	2後	1				
物理療法学実習		1	01	04	3	25	94	3前	1				
日常生活活動演習Ⅰ		1	01	04	3	25	95	3前	1				
日常生活活動演習Ⅱ	1	01	04	3	25	96	3後	1					
	地域理学療法	地域理学療法学演習Ⅰ	1	01	04	3	25	97	3前	2			
地域理学療法学演習Ⅱ		1	01	04	3	25	98	3後	1				
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1	01	04	4	25	99	2前	2			
臨床実習Ⅱ		1	01	04	4	25	100	3通	6				
地域理学療法実習		1	01	04	4	25	101	3後	1				
臨床実習Ⅲ		1	01	04	4	25	102	4前	11				
	特別科目	基礎セミナーⅠ	1	01	04	1	25	103	1前	1			
基礎セミナーⅡ		1	01	04	1	25	104	1後	1				
基礎セミナーⅢ		1	01	04	2	25	105	2前	1				
基礎セミナーⅣ		1	01	04	2	25	106	2後	1				
夏季集中セミナー		1	01	04	1	25	107	1前		1			
動物理学療法		1	01	04	2	25	108	3後		1			
ハンドリング技術演習		1	01	04	2	25	109	2後		1			
地域理学療法セミナー		1	01	04	3	25	110	3前		1			
スポーツ理学療法セミナー		1	01	04	3	25	111	3後		1			
ウイメンズ・メンズ理学療法		1	01	04	2	25	112	3後		1			
医学英語		1	01	04	3	25	113	3後		1			
福祉住環境論		1	01	04	3	25	114	3前		1			
アダプテッド・スポーツ基礎実習		1	01	04	1	25	115	3前		1			
アダプテッド・スポーツ論		1	01	04	1	25	116	3後		2			
理学療法学特論	1	01	04	4	25	117	4通	1					
理学療法学特別演習Ⅰ	1	01	04	4	25	118	3前	1					
理学療法学特別演習Ⅱ	1	01	04	4	25	119	4後	1					
専門科目の合計									64	11	0	66 単位以上修得すること。	
理学療法学専攻の総合計									112	73	0	126 単位以上修得すること。	

選択科目5科目から2単位以上修得すること。

区 分	卒 業 要 件 単 位 数		
	必修	選択	計
基 礎 科 目	9	11	20
専 門 基 礎 科 目	39	1	40
専 門 科 目	64	2	66
合 計	112	14	126

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】

[リハビリテーション学科・作業療法専攻]

授業科目の名称	ナンバリング							配当年次	単位数			備考
	学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー	必修		選択	自由		
基礎科目	ク探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	02	01	1	25	1	1通		2	選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	02	01	1	25	2	1前・1後		2	
		現代社会を視る	1	02	01	1	25	3	1前・1後		2	
		生活の中の科学	1	02	01	1	25	4	1前・1後		2	
		経済・法律・世界を視る	1	02	01	1	25	5	1前・1後		2	
		社会活動入門	1	02	01	1	25	6	1前・1後		2	
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	02	02	1	25	7	1前	2		選択科目6科目から1単位以上修得すること。
		生活の中の物理学	1	02	02	1	25	8	1後		2	
		生活の中の化学	1	02	02	1	25	9	1前		2	
		生活の中の生物学	1	02	02	1	25	10	1前		2	
		統計解析	1	02	02	2	25	11	1後		2	
		医療情報科学	1	02	02	1	25	12	1後		1	
	自己形成	医療のための基礎数学	1	02	02	1	25	13	1前		1	選択科目7科目から1単位以上修得すること。
		アカデミック・スキル演習	1	02	02	1	25	14	1通	2		
		スポーツ実技	1	02	02	1	25	15	1前		1	
		心理学概論	1	02	02	1	25	16	1後	2		
	ことばと相互理解	生命倫理学	1	02	02	1	25	17	1後	1		選択科目7科目から1単位以上修得すること。
		英語コミュニケーションⅠ	1	02	02	1	25	18	1前	1		
		英語コミュニケーションⅡ	1	02	02	1	25	19	1後	1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	02	02	1	25	20	1前		1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	02	02	1	25	21	1後		1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1	02	02	1	25	22	1前		1	
		中国語コミュニケーションⅡ	1	02	02	1	25	23	1後		1	
	コミュニケーション論	1	02	02	1	25	24	1前		2		
	人と生活	現代国語表現	1	02	02	1	25	25	1前		2	選択科目11科目から4単位以上修得すること。
		海外研修	1	02	02	1	25	26	1通		2	
		健康科学	1	02	02	1	25	27	1前	1		
		教育学	1	02	02	1	25	28	1後		2	
		教育方法論	1	02	02	1	25	29	2前		2	
		哲学	1	02	02	1	25	30	1後		2	
現代史		1	02	02	1	25	31	2前		2		
東北の歴史		1	02	02	1	25	32	2前		2		
ジェンダー論		1	02	02	1	25	33	1後		2		
憲法と法律		1	02	02	1	25	34	1前		2		
文化人類学	1	02	02	1	25	35	2前		2			
生活と地球科学	1	02	02	1	25	36	2後		2			
生活と経済	1	02	02	1	25	37	2後		2			
教養としての政治学	1	02	02	1	25	38	2後		2			
基礎科目の合計									10	55	0	18単位以上修得すること。
専門基礎科目	発達・人体の構造と機能及び心身の	解剖学Ⅰ	1	02	03	2	25	39	1前	2		選択科目11科目から4単位以上修得すること。
		解剖学実習	1	02	03	2	25	40	1前	1		
		解剖学Ⅱ	1	02	03	2	25	41	1後	2		
		基礎運動学	1	02	03	2	25	42	1前	2		
		運動学演習	1	02	03	2	25	43	1後	1		
		運動学実習	1	02	03	2	25	44	2前	1		
		生理学Ⅰ	1	02	03	2	25	45	1前	2		
		生理学Ⅱ	1	02	03	2	25	46	1後	2		
		生理学実習	1	02	03	2	25	47	1後	1		
		人間生涯発達学	1	02	03	2	25	48	2前	2		
	進疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促	臨床医学総論	1	02	03	2	25	49	1後	2		
		内部障害系病学	1	02	03	2	25	50	2前	2		
		神経障害系病学	1	02	03	2	25	51	2前	2		
		運動器障害系病学	1	02	03	2	25	52	2前	2		
		精神障害系病学Ⅰ	1	02	03	2	25	53	2前	2		
		精神障害系病学Ⅱ	1	02	03	2	25	54	2後	2		
		発達障害系病学	1	02	03	2	25	55	2後	1		
		老年期病学	1	02	03	2	25	56	2後	1		
		臨床心理学	1	02	03	2	25	57	2前	2		
		栄養学概論	1	02	03	2	25	58	2後	1		
救命救急学演習	1	02	03	3	25	59	1後	1				
リハビリテーション医学	1	02	03	2	25	60	1後	1				
病態薬理学	1	02	03	2	25	61	3前	1				

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】

[リハビリテーション学科・作業療法学専攻]

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単 位 数			備 考
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度		ナンバー	必修	選択	
専門基礎科目	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	02	03	2	25	62	1前	1		選択科目5科目から1単位以上修得すること。
		リハビリテーション心理	1	02	03	2	25	63	3前		1	
		医療経済論	1	02	03	2	25	64	2後		1	
		公衆衛生学	1	02	03	2	25	65	3前		1	
		チーム医療福祉論	1	02	03	2	25	66	1後	1		
		保健医療福祉概論	1	02	03	2	25	67	2後	2		
		専門職連携論	1	02	03	2	25	68	3前	2		
		専門職連携セミナー	1	02	03	2	25	69	3後		1	
		重度障がい者自立生活支援演習	1	02	03		25	70	1・2・3・4後		1	
		専門基礎分野の合計									42	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1	02	04	2	25	71	1前	2		
		基礎作業学	1	02	04	2	25	72	1前	1		
		基礎作業学実習	1	02	04	2	25	73	1後	1		
		作業分析学	1	02	04	3	25	74	3前	1		
	作業療法管理学	作業療法管理学	1	02	04	3	25	75	3前	2		
	作業療法評価学	作業療法基礎評価学	1	02	04	3	25	76	1後	1		
		作業療法評価学演習	1	02	04	3	25	77	1後	1		
		身体障害作業療法評価学実習	1	02	04	2	25	78	2前	1		
		精神障害作業療法評価学実習	1	02	04	3	25	79	2後	1		
		発達障害作業療法評価学実習	1	02	04	3	25	80	2後	1		
	作業治療学	作業治療論	1	02	04	3	25	81	2前	1		
		身体障害作業療法学	1	02	04	3	25	82	2前	1		
		身体障害作業療法学演習	1	02	04	3	25	83	2後	2		
		身体障害作業療法学実習	1	02	04	3	25	84	3前	1		
		精神障害作業療法学	1	02	04	3	25	85	2後	2		
		精神障害作業療法学演習	1	02	04	3	25	86	3前	1		
		精神障害作業療法学実習	1	02	04	3	25	87	3前	1		
		高次脳機能障害作業療法学	1	02	04	3	25	88	3前	1		
		発達障害作業療法学	1	02	04	3	25	89	2後	2		
		発達障害作業療法学実習	1	02	04	3	25	90	3前	1		
		老年期障害作業療法学	1	02	04	3	25	91	2後	2		
		日常生活活動学	1	02	04	3	25	92	2前	1		
	地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ	1	02	04	3	25	95	2後	2		
		地域作業療法学Ⅱ	1	02	04	3	25	96	3前	2		
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1	02	04	4	25	97	2後	3		
		臨床実習入門	1	02	04	3	25	98	2前	1		
		臨床実習セミナーⅠ	1	02	04	4	25	99	2後	1		
		臨床実習Ⅱ	1	02	04	4	25	100	3後	10		
		臨床実習セミナーⅡ	1	02	04	4	25	101	3前	1		
		臨床実習Ⅲ	1	02	04	4	25	102	4前	10		
臨床実習セミナーⅢ		1	02	04	4	25	103	4前	1			
地域作業療法学実習		1	02	04	4	25	104	4前	1			
特別科目	臨床体験	1	02	04	2	25	105	1通	1			
	作業療法研究法	1	02	04	4	25	106	3後	1			
	卒業研究	1	02	04	4	25	107	4前	1			
	基礎科目演習セミナー	1	02	04	2	25	108	1通	1			
	作業療法学特別演習	1	02	04	4	25	109	4後	1			
専門科目の合計									68	0	0	68単位以上修得すること。
作業療法学専攻の総合計									120	60	0	129単位以上修得すること。

区 分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	10	8	18
専門基礎科目	42	1	43
専門科目	68	0	68
合 計	120	9	129

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】

[リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻]

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度		ナンバー	必修	選択	
基礎科目	シエクト 探求・理解 プロジェクト	輝ける者	1	03	01	1	25	1	1通		2	選択科目 6科目から 2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	03	01	1	25	2	1前・1後		2	
		現代社会を視る	1	03	01	1	25	3	1前・1後		2	
		生活の中の科学	1	03	01	1	25	4	1前・1後		2	
		経済・法律・世界を視る	1	03	01	1	25	5	1前・1後		2	
		社会活動入門	1	03	01	1	25	6	1前・1後		2	
	科学的 的思考の基	データサイエンス入門	1	03	02	1	25	7	1前	2		
		医療のための基礎数学	1	03	02	1	25	8	1前		2	
		生活の中の化学	1	03	02	1	25	9	1前		2	
		生活の中の生物学	1	03	02	1	25	10	1前		2	
		医療情報科学	1	03	02	1	25	11	1後		1	
		統計解析	1	03	02	2	25	12	1後		2	
		生活の中の物理学	1	03	02	1	25	13	1後		2	
	自己 形成	アカデミック・スキル演習	1	03	02	1	25	14	1通	1		
		生命倫理学	1	03	02	1	25	15	1後	1		
		スポーツ実技	1	03	02	1	25	16	1前		1	
		心理学概論	1	03	02	1	25	17	1後		2	
	ことばと 相互理解	コミュニケーション論	1	03	02	1	25	18	1前	2		
		現代国語表現	1	03	02	1	25	19	1前	2		
		英語コミュニケーションⅠ	1	03	02	1	25	20	1前			
		英語コミュニケーションⅡ	1	03	02	1	25	21	1後	1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	03	02	1	25	22	1前		1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	03	02	1	25	23	1後		1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1	03	02	1	25	24	1前		1	
		中国語コミュニケーションⅡ	1	03	02	1	25	25	1後		1	
	海外研修	1	03	02	1	25	26	1通		2		
	人と 生活	健康科学	1	03	02	1	25	27	1前	1		選択科目 11科目から 2単位以上修得すること。
		憲法と法律	1	03	02	1	25	28	1前		2	
		東北の歴史	1	03	02	1	25	29	1前		2	
		現代史	1	03	02	1	25	30	1前		2	
		哲学	1	03	02	1	25	31	1後		2	
		教育学	1	03	02	1	25	32	1後		2	
		ジェンダー論	1	03	02	1	25	33	1後		2	
生活と地球科学		1	03	02	1	25	34	1後		2		
生活と経済		1	03	02	1	25	35	1後		2		
教養としての政治学		1	03	02	1	25	36	1後		2		
文化人類学		1	03	02	1	25	37	2前		2		
教育方法論	1	03	02	2	25	38	2前		2			
言語聴覚 療法の基盤	チーム医療福祉論	1	03	02	1	25	39	1後	1			
	保健医療福祉概論	1	03	02	2	25	40	2後	2			
	専門職連携論	1	03	02	2	25	41	3前	2			
	専門職連携セミナー	1	03	02	3	25	42	3後		1		
	重度障がい者自立生活支援演習	1	03	02	1	25	43	1・2・3・4後		1		
	認知神経科学	1	03	02	3	25	44	2前	2			
	救命救急学	1	03	02	2	25	45	2後		1		
	栄養学概論	1	03	02	2	25	46	2後		1		
	病態薬理学	1	03	02	2	25	47	3前		1		
	公衆衛生学	1	03	02	2	25	48	3前		1		
	言語聴覚学研究	1	03	02	4	25	49	3通		4		
基礎科目の合計									18	64	0	26単位以上修得すること。
専門基礎科目	人体のしくみ・ 疾病と治療	解剖・生理学概論Ⅰ	1	03	03	2	25	50	1前		2	
		解剖・生理学概論Ⅱ	1	03	03	2	25	51	1後		2	
		医学総論	1	03	03	2	25	52	1後		1	
		小児科学	1	03	03	2	25	53	1後		1	
		内科学	1	03	03	2	25	54	2前		1	
		耳鼻咽喉科学	1	03	03	2	25	55	2前		2	
		リハビリテーション医学	1	03	03	2	25	56	2前		1	
		形成外科学	1	03	03	2	25	57	2前		1	
		臨床口腔歯科医学	1	03	03	2	25	58	2前		2	
		臨床神経学	1	03	03	2	25	59	2後		2	
		精神医学	1	03	03	2	25	60	2後		1	
		呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1	03	03	2	25	61	1後		1	
		聴覚系の構造・機能・病態	1	03	03	2	25	62	1後		1	
		神経系の構造・機能・病態	1	03	03	2	25	63	1後		1	
		生涯発達心理学	1	03	03	2	25	64	1前		2	
	心の働き	学習・認知心理学	1	03	03	2	25	65	1後		2	
心理測定法	1	03	03	3	25	66	2後		2			
臨床心理学	1	03	03	2	25	67	2後		1			

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】

〔リハビリテーション学科・言語聴覚学専攻〕

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備考		
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度		ナンバー	必修	選択		自由	
専門基礎科目	言語とコミュニケーション	言語学Ⅰ	1	03	03	2	25	68	1前	2			36単位修得すること。	
		言語学Ⅱ	1	03	03	3	25	69	1後	1				
		音声学	1	03	03	2	25	70	1前	2				
		音響学	1	03	03	3	25	71	1前	2				
		聴覚心理学	1	03	03	3	25	72	1後	1				
		言語発達学	1	03	03	2	25	73	1後	1				
	社会福祉・教育とリハビリテーション	医療福祉関係法規	1	03	03	3	25	74	3前	1				
専門基礎科目の合計									36	0	0			
専門科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学総論	1	03	04	2	25	75	1前	2				65単位以上修得すること。 127単位以上修得すること。
		言語聴覚療法管理学	1	03	04	4	25	76	3後	2				
	失語・高次脳機能障害学	失語症Ⅰ	1	03	04	4	25	77	2後	2				
		失語症学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	78	2後	1				
		失語症Ⅱ	1	03	04	4	25	79	3前	2				
		失語症学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	80	3前	1				
		高次脳機能障害学Ⅰ	1	03	04	4	25	81	2後	1				
		高次脳機能障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	82	2後	1				
		高次脳機能障害学Ⅱ	1	03	04	4	25	83	3前	1				
	高次脳機能障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	84	3前	1					
	言語発達障害学	言語発達障害学Ⅰ	1	03	04	4	25	85	2前	2				
		言語発達障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	86	2前	1				
		言語発達障害学Ⅱ	1	03	04	4	25	87	2後	2				
		言語発達障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	88	2後	1				
	発声発語・摂食嚥下障害学	構音障害学Ⅰ	1	03	04	4	25	89	2前	1				
		構音障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	90	2前	1				
		構音障害学Ⅱ	1	03	04	4	25	91	2後	1				
		構音障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	92	2後	1				
		摂食嚥下障害学	1	03	04	4	25	93	3前	2				
		摂食嚥下障害学演習	1	03	04	4	25	94	3前	1				
		音声障害学	1	03	04	4	25	95	3前	2				
		吃音・流暢性障害学	1	03	04	4	25	96	3後	1				
	聴覚障害学	成人聴覚障害学	1	03	04	4	25	97	2前	2				
		聴覚障害学演習Ⅰ	1	03	04	4	25	98	2前	1				
		小児聴覚障害学	1	03	04	4	25	99	2後	2				
		補聴器・人工内耳	1	03	04	4	25	100	3前	2				
		聴覚障害学演習Ⅱ	1	03	04	4	25	101	3後	1				
地域言語聴覚療法	地域言語聴覚療法	1	03	04	4	25	102	3前	2					
臨床実習	見学実習Ⅰ	1	03	04	2	25	103	1通	1					
	見学実習Ⅱ	1	03	04	3	25	104	2通	1					
	評価実習	1	03	04	4	25	105	3後	5					
	総合臨床実習	1	03	04	4	25	106	4前	8					
ゼミナール	基礎ゼミナール	1	03	04	3	25	107	2前	1					
	領域別ゼミナールⅠ	1	03	04	4	25	108	3前	1					
	総合演習	1	03	04	4	25	109	3後	3					
	領域別ゼミナールⅡ	1	03	04	4	25	110	4通	4					
	言語聴覚学特別講義	1	03	04	4	25	111	4後	1					
専門科目の合計									65	0	0			
言語聴覚学専攻の総合計									119	64	0			

区 分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	18	8	26
専門基礎科目	36	0	36
専門科目	65	0	65
合 計	119	8	127

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
[リハビリテーション学科・視覚機能学専攻]

授業科目の名称		ナンバリング						配当年次	単位数			備考
		学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	04	01	1	25	1	1通		2	選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。
		生命を考える	1	04	01	1	25	2	1前・1後		2	
		現代社会を視る	1	04	01	1	25	3	1前・1後		2	
		生活の中の科学	1	04	01	1	25	4	1前・1後		2	
		経済・法律・世界を視る	1	04	01	1	25	5	1前・1後		2	
		社会活動入門	1	04	01	1	25	6	1前・1後		2	
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	04	02	1	25	7	1前	2		選択科目 4 科目から 3 単位以上修得すること。
		生活の中の化学	1	04	02	1	25	8	1前		2	
		生活の中の生物学	1	04	02	1	25	9	1前		2	
		生活の中の物理学	1	04	02	1	25	10	1後		2	
		医療情報科学	1	04	02	1	25	11	1後		1	
		医療のための基礎数学	1	04	02	1	25	12	1前	1		
	自己形成	統計解析	1	04	02	1	25	13	1後	2		
		スポーツ実技	1	04	02	1	25	14	1前		1	
		生命倫理学	1	04	02	1	25	15	1後		1	
		心理学概論	1	04	02	1	25	16	1後	2		
		アカデミック・スキル演習Ⅰ	1	04	02	1	25	17	1前	1		
		アカデミック・スキル演習Ⅱ	1	04	02	1	25	18	1後	1		
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1	04	02	1	25	19	1前	1		選択科目 10 科目から 4 単位以上修得すること。
		英語コミュニケーションⅡ	1	04	02	1	25	20	1後	1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	04	02	1	25	21	1前		1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	04	02	1	25	22	1後		1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1	04	02	1	25	23	1前		1	
		中国語コミュニケーションⅡ	1	04	02	1	25	24	1後		1	
	人と生活	コミュニケーション論	1	04	02	1	25	25	1前		2	
		海外研修	1	04	02	1	25	26	1通		2	
		現代国語表現	1	04	02	1	25	27	1前	2		
		健康科学	1	04	02	1	25	28	1前	1		
		教育学	1	04	02	1	25	29	1後	2		
		哲学	1	04	02	1	25	30	1後		2	
ジェンダー論		1	04	02	1	25	31	1後		2		
憲法と法律		1	04	02	1	25	32	1前		2		
東北の歴史		1	04	02	1	25	33	1前		2		
現代史		1	04	02	1	25	34	1前		2		
基礎科目の合計	生活と地球科学	1	04	02	1	25	35	1後		2		
	生活と経済	1	04	02	1	25	36	1後		2		
	教養としての政治学	1	04	02	1	25	37	1後		2		
	文化人類学	1	04	02	1	25	38	2前		2		
	教育方法論	1	04	02	1	25	39	2前		2		
	解剖・生理学概論Ⅰ	1	04	03	2	25	40	1前	2		25 単位以上修得すること。	
	解剖・生理学概論Ⅱ	1	04	03	2	25	41	1後	2			
	感覚器解剖・生理	1	04	03	2	25	42	2前	2			
	専門基礎科目	感覚器解剖・生理演習	1	04	03	2	25	43	2前	1		
		人間生涯発達学	1	04	03	2	25	44	2前	2		
眼の解剖としくみⅠ		1	04	03	3	25	45	1前	1			
眼の解剖としくみⅡ		1	04	03	3	25	46	1後	1			
医学総論		1	04	03	2	25	47	1後	2			
公衆衛生学		1	04	03	2	25	48	2前	1			
臨床神経学		1	04	03	2	25	49	2後	2			
臨床医学		1	04	03	2	25	50	2後	2			
救命救急学		1	04	03	2	25	51	3後	1			
視覚機能の基礎と検査		1	04	03	1	25	52	1前	1			
リハビリテーションの理念	両眼視機能と眼球運動	1	04	03	3	25	53	1後	1			
	両眼視機能と眼球運動演習	1	04	03	3	25	54	2前	2			
	屈折矯正Ⅰ	1	04	03	3	25	55	2前	1			
	屈折矯正Ⅱ	1	04	03	4	25	56	2後	2			
	眼鏡矯正	1	04	03	4	25	57	3前	1			
	リハビリテーション概論	1	04	03	2	25	58	1後	1			
	チーム医療福祉論	1	04	03	2	25	59	1後	1			
	保育概論	1	04	03	2	25	60	2後	1			
	保健医療福祉概論	1	04	03	2	25	61	2後	2			
	医療福祉関係法規	1	04	03	2	25	62	3前	1			
同行援護	専門職連携	1	04	03	2	25	63	3前	2			
	専門職連携セミナー	1	04	03	2	25	64	3後		1		
	看護・保健概論	1	04	03	2	25	65	2後		1		
	介護概論	1	04	03	2	25	66	2前		1		
	重度障がい者自立生活支援演習	1	04	03	1	25	67	1・2・3・4後		1		
	同行援護	1	04	03	3	25	68	1・2・3・4通		2		
	同行援護演習	1	04	03	3	25	69	1・2・3・4通		1		
	専門基礎科目の合計								35	7	0	36 単位以上修得すること。

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
[リハビリテーション学科・視覚機能学専攻]

授業科目の名称			ナンバリング				配当年次	単位数			備 考	
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度		カリキュラム 年度	ナンバー	必修		選択
専門科目	基礎視能矯正学	生理光学Ⅰ	1	04	04	3	25	70	1 前	1		
		生理光学Ⅱ	1	04	04	4	25	71	1 後	1		
		社会と医療Ⅰ	1	04	04	3	25	72	1 後	1		
		社会と医療Ⅱ	1	04	04	3	25	73	3 後	1		
		視覚生理学Ⅰ	1	04	04	3	25	74	2 後	2		
		視覚生理学Ⅱ	1	04	04	4	25	75	3 前	1		
		視覚生理学演習	1	04	04	4	25	76	3 前	1		
		臨床心理学	1	04	04	3	25	77	2 後	1		
		眼科薬理学	1	04	04	3	25	78	2 後	1		
眼科臨床機器学	1	04	04	4	25	79	4 後	2				
視能検査学	基礎眼光学	1	04	04	2	25	80	1 前	1			
	視能検査学概論	1	04	04	2	25	81	2 前	2			
	眼画像検査	1	04	04	4	25	82	3 通	3			
	視能検査学Ⅰ	1	04	04	3	25	83	3 前	1			
	視能検査学演習Ⅰ	1	04	04	4	25	84	3 前	1			
	視能検査学Ⅱ	1	04	04	4	25	85	3 後	2			
	視能検査学演習Ⅱ	1	04	04	4	25	86	3 後	1			
視能障害学	眼疾病学Ⅰ	1	04	04	3	25	87	2 前	2			
	眼疾病学Ⅱ	1	04	04	3	25	88	2 後	2			
	眼疾病学Ⅲ	1	04	04	4	25	89	3 前	1			
	神経眼科学	1	04	04	3	25	90	3 前	1			
	斜視・弱視	1	04	04	3	25	91	3 前	2			
視能訓練学	基礎視能訓練学	1	04	04	3	25	92	2 前	1			
	基礎視能訓練学演習	1	04	04	3	25	93	2 前	1			
	視能訓練学Ⅰ	1	04	04	3	25	94	2 後	1			
	視能訓練学演習Ⅰ	1	04	04	3	25	95	2 後	1			
	視能訓練学Ⅱ	1	04	04	4	25	96	3 前	1			
	視能訓練学演習Ⅱ	1	04	04	4	25	97	3 前	1			
	視能訓練学Ⅲ	1	04	04	4	25	98	3 後	2			
	ロービジョン学Ⅰ	1	04	04	3	25	99	2 後	1			
	ロービジョン学Ⅱ	1	04	04	4	25	100	3 前	1			
	ロービジョンリハビリテーション	1	04	04	4	25	101	3 後	1			
臨地実習	臨地実習Ⅰ	1	04	04	4	25	102	3 後	7			
	臨地実習Ⅱ	1	04	04	4	25	103	4 前	7			
	総合演習Ⅰ	1	04	04	4	25	104	3 前	1			
	総合演習Ⅱ	1	04	04	4	25	105	4 前	1			
ミ研究・等七	視覚機能学特別セミナー	1	04	04	4	25	106	4 通	3			
	視覚機能学研究法	1	04	04	4	25	107	3 後	1			
	視覚機能学研究	1	04	04	4	25	108	4 通	2			
専門科目の合計								64	0	0	64 単位以上修得すること。	
視覚機能学専攻の総合計								115	56	0	125 単位以上修得すること。	

区 分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	16	9	25
専門基礎科目	35	1	36
専門科目	64	0	64
合 計	115	10	125

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】
〔看護学科〕

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備考
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度		ナンバー	必修	選択	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	05	01	1	25	1	1通		2	選択科目6科目から2単位以上を修得すること
		生命を考える	1	05	01	1	25	2	1前・1後		2	
		現代社会を視る	1	05	01	1	25	3	1前・1後		2	
		生活の中の科学	1	05	01	1	25	4	1前・1後		2	
		経済・法律・世界を視る	1	05	01	1	25	5	1前・1後		2	
		社会活動入門	1	05	01	1	25	6	1前・1後		2	
	科学的思考の基礎	データサイエンス入門	1	05	02	1	25	7	1前	2		
		医療情報科学	1	05	02	1	25	8	1後		1	
		医療のための基礎数学	1	05	02	1	25	9	1前		1	
		生活の中の物理学	1	05	02	1	25	10	1後		2	
		生活の中の化学	1	05	02	1	25	11	1前		2	
		生活の中の生物学	1	05	02	1	25	12	1前	2		
		統計解析	1	05	02	1	25	13	1後		2	
	自己形成	アカデミック・スキル演習	1	05	02	1	25	14	1通	2		*
		スポーツ実技	1	05	02	1	25	15	1後		1	
		心理学概論	1	05	02	1	25	16	1後		2	
		生命倫理学	1	05	02	1	25	17	1後	1		
	ことばと相互理解	英語コミュニケーションⅠ	1	05	02	1	25	18	1前	1		
		英語コミュニケーションⅡ	1	05	02	1	25	19	1後	1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	05	02	1	25	20	1前		1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	05	02	1	25	21	1後		1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1	05	02	1	25	22	1前		1	
		中国語コミュニケーションⅡ	1	05	02	1	25	23	1後		1	
		コミュニケーション論	1	05	02	1	25	24	1前		2	
		現代国語表現	1	05	02	1	25	25	1前	2		
	海外研修	1	05	02	1	25	26	1通		2		
	人と生活	教育学	1	05	02	1	25	27	1後		2	*
		憲法と法律	1	05	02	1	25	28	1前		2	
		文化人類学	1	05	02	1	25	29	2前		2	
		東北の歴史	1	05	02	1	25	30	1前		2	
現代史		1	05	02	1	25	31	1前		2		
健康科学		1	05	02	1	25	32	1前	1			
生活と地球科学		1	05	02	1	25	33	1後		2		
哲学		1	05	02	1	25	34	1後		2		
生活と経済		1	05	02	1	25	35	1後		2		
ジェンダー論		1	05	02	1	25	36	1後		2		
教養としての政治学		1	05	02	1	25	37	1後		2		
教育方法論		1	05	02	1	25	38	2前		2		
基礎科目の合計									12	53	0	15 単位以上修得すること
専門基礎科目	回復の促進と機能及び疾病の成り立ちと	解剖生理学Ⅰ	1	05	03	2	25	39	1前	2		保健師課程を選択する者は修得すること
		解剖生理学Ⅱ	1	05	03	2	25	40	1後	2		
		生化学	1	05	03	2	25	41	1後	2		
		栄養学	1	05	03	2	25	42	1後	2		
		病原微生物学	1	05	03	2	25	43	2前	2		
		病態治療学Ⅰ	1	05	03	2	25	44	1後	2		
		病態治療学Ⅱ	1	05	03	2	25	45	2前	2		
		病態治療学Ⅲ	1	05	03	2	25	46	2前	2		
		病態治療学Ⅳ	1	05	03	2	25	47	2後	2		
		病態治療学Ⅴ	1	05	03	2	25	48	2後	2		
	薬理学	1	05	03	2	25	49	2前	2			
	救急医療論	1	05	03	2	25	50	3前	1			
	健康支援と社会保健制度	臨床心理学	1	05	03	2	25	51	2前	2		
		公衆衛生学	1	05	03	2	25	52	1後	2		
		社会保障・福祉論	1	05	03	2	25	53	2前	2		
		医療経済論	1	05	03	2	25	54	2後	1		
		カウンセリング	1	05	03	2	25	55	2後	2		
疫学と統計	家族社会学	1	05	03	2	25	56	1後	2			
	疫学	1	05	03	2	25	57	3前	2			
保健統計学	1	05	03	2	25	58	3前	2				
専門基礎分野の合計									34	4	0	34 単位以上修得すること

2025年度以降入学者用

【医療福祉学部】

[看護学科]

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	05	04	2	25	59	1前	2			} 選択2科目から2単位を修得すること
		看護学概論Ⅱ	1	05	04	2	25	60	4後	1			
		看護技術論Ⅰ	1	05	04	3	25	61	1前	3			
		看護技術論Ⅱ	1	05	04	3	25	62	1後	3			
		看護技術論Ⅲ	1	05	04	3	25	63	2前	1			
		看護技術論Ⅳ	1	05	04	3	25	64	2後	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1	05	04	4	25	65	2前	1			
		基礎看護学実習Ⅱ	1	05	04	4	25	66	2後	2			
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論	1	05	04	2	25	67	2後	1			
		地域・在宅看護学Ⅰ	1	05	04	3	25	68	3前	1			
		地域・在宅看護学Ⅱ	1	05	04	3	25	69	4後	1			
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	70	3前	2			
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	71	3前	1			
		地域・在宅看護学実習A	1	05	04	4	25	72	3後		2		
		地域・在宅看護学実習B	1	05	04	4	25	73	4前		2		
		成人看護学	成人看護学概論	1	05	04	2	25	74	1後	1		
	成人看護方法論Ⅰ		1	05	04	3	25	75	2前	1			
	成人看護方法論Ⅱ		1	05	04	3	25	76	2後	1			
	成人看護方法論Ⅲ		1	05	04	3	25	77	2前	1			
	成人看護方法論Ⅳ		1	05	04	3	25	78	2後	1			
	成人看護方法論Ⅴ		1	05	04	3	25	79	3前	1			
	成人看護学実習ⅠA		1	05	04	4	25	80	3後		3		
	成人看護学実習ⅠB		1	05	04	4	25	81	4前		3		
	成人看護学実習ⅡA		1	05	04	4	25	82	3後		3		
	成人看護学実習ⅡB	1	05	04	4	25	83	4前		3			
	老年看護学	老年看護学概論	1	05	04	2	25	84	2前	1			
		老年看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	85	2後	2			
		老年看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	86	3前	1			
		老年看護学実習ⅠA	1	05	04	4	25	87	3後		3		
		老年看護学実習ⅠB	1	05	04	4	25	88	4前		3		
		老年看護学実習ⅡA	1	05	04	4	25	89	3後		1		
		老年看護学実習ⅡB	1	05	04	4	25	90	4前		1		
	小児看護学	小児看護学概論	1	05	04	2	25	91	2前	1			
		小児看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	92	2後	2			
		小児看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	93	3前	1			
		小児看護学実習ⅠA	1	05	04	4	25	94	3後		1		
小児看護学実習ⅠB		1	05	04	4	25	95	4前		1			
小児看護学実習ⅡA		1	05	04	4	25	96	3後		1			
小児看護学実習ⅡB		1	05	04	4	25	97	4前		1			
母性看護学	母性看護学概論	1	05	04	2	25	98	2前	1				
	母性看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	99	2後	2				
	母性看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	100	3前	1				
	母性看護学実習A	1	05	04	4	25	101	3後		2			
	母性看護学実習B	1	05	04	4	25	102	4前		2			
精神看護学	精神看護学概論	1	05	04	2	25	103	2前	1				
	精神看護方法論Ⅰ	1	05	04	3	25	104	2後	2				
	精神看護方法論Ⅱ	1	05	04	3	25	105	3前	1				
	精神看護学実習A	1	05	04	4	25	106	3後		2			
	精神看護学実習B	1	05	04	4	25	107	4前		2			
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1	05	04	2	25	108	1後	1				
	公衆衛生看護学Ⅰ	1	05	04	3	25	109	2後		1			
	公衆衛生看護学Ⅱ	1	05	04	3	25	110	3前		1			
	公衆衛生看護方法論	1	05	04	3	25	111	3前		2			
	産業保健学	1	05	04	3	25	112	3前		1			
	学校保健学	1	05	04	3	25	113	3前		1			
	保健医療福祉行政論	1	05	04	3	25	114	3前		2			
	公衆衛生看護管理論	1	05	04	3	25	115	3前		1			
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	1	05	04	4	25	116	4通		1			
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	05	04	4	25	117	4通		2			
	公衆衛生看護学実習Ⅲ	1	05	04	4	25	118	4通		1			

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【医療福祉学部】

[看護学科]

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	特別演習	基礎セミナーⅠ	1	05	04	2	25	119	2通	1			} 2科目から1単位を修得すること
		基礎セミナーⅡ	1	05	04	3	25	120	3前	1			
		実習前特別演習 A	1	05	04	4	25	121	3前		1		
		実習前特別演習 B	1	05	04	4	25	122	3後		1		
	看護の統合と実践	看護管理学Ⅰ	1	05	04	3	25	123	3前	2			} 選択2科目から2単位を修得すること
		看護管理学Ⅱ	1	05	04	3	25	124	4後	2			
		チーム医療論	1	05	04	3	25	125	3前	1			
		統合看護実習 A	1	05	04	4	25	126	4前		2		
		統合看護実習 B	1	05	04	4	25	127	4後		2		
		看護研究論Ⅰ	1	05	04	2	25	128	3前	1			
		看護研究論Ⅱ	1	05	04	3	25	129	3後	1			
		看護研究論Ⅲ	1	05	04	3	25	130	4前	1			
	看護学特別演習	1	05	04	4	25	131	4後	1				
多職種連携	チーム医療福祉論	1	05	04	2	25	132	1後		1			
	保健医療福祉概論	1	05	04	3	25	133	2後		2			
	専門職連携論	1	05	04	3	25	134	3前		2			
	専門職連携セミナー	1	05	04	3	25	135	3後		1			
	重度障がい者自立生活支援演習	1	05	04	1	25	136	1・2・3・4後		1			
専門科目の合計									54	62	0	75 単位以上修得すること	
看護学科の総合計									100	119	0	124 単位以上修得すること	

区 分	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
基礎科目	12	3	15
専門基礎科目	34	0	34
専門科目	54	21	75
合 計	100	24	124

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】
【現代社会学科・社会学専攻】

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度		ナンバー	必修	選択	
基礎科目	シエク・理解プロ	輝ける者	1	12	01	1	25	1	1通		2	選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	12	01	1	25	2	1前・1後		2	
		現代社会を視る	1	12	01	1	25	3	1前・1後		2	
		生活の中の科学	1	12	01	1	25	4	1前・1後		2	
		経済・法律・世界を視る	1	12	01	1	25	5	1前・1後		2	
		社会活動入門	1	12	01	1	25	6	1前・1後		2	
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	7	1前	1		選択科目5科目から2単位以上修得すること。
		英語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	8	1後	1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	9	1前		1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	10	1後		1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	11	1前		1	
		中国語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	12	1後		1	
		海外研修	1	12	02	1	25	13	1通		2	
		スポーツ実技	1	12	02	1	25	14	1後		1	
		心理学概論	1	12	02	1	25	15	1前		2	
		生命倫理学	1	12	02	1	25	16	1後		1	
		健康科学	1	12	02	1	25	17	1前	1		
		教育学	1	12	02	1	25	18	1後		2	
		哲学	1	12	02	1	25	19	1前		2	
		現代史	1	12	02	1	25	20	1後		2	
		東北の歴史	1	12	02	1	25	21	1前		2	
	ジェンダー論	1	12	02	1	25	22	1前		2		
	健康スポーツ	生活の中の物理学	1	12	02	1	25	23	1前		2	
		生活の中の化学	1	12	02	1	25	24	1後		2	
		生活の中の生物学	1	12	02	1	25	25	1後		2	
		生活と地球科学	1	12	02	1	25	26	1前		2	
		データサイエンス入門	1	12	02	1	25	27	1前	2		
		コミュニケーション論	1	12	02	1	25	28	1後		2	
		憲法と法律	1	12	02	1	25	29	1後		2	
		生活と経済	1	12	02	1	25	30	1前		2	
		教養としての政治学	1	12	02	1	25	31	1前		2	
		キャリア形成	1	12	02	1	25	32	1前		1	
	キャリア形成	夏季野外活動実習	1	12	02	1	25	33	1後		1	
		冬季野外活動実習	1	12	02	1	25	34	1後		2	
		アダプテッド・スポーツ論	1	12	02	1	25	35	1前		1	
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	12	02	1	25	35	1前		1	
		レクリエーション理論	1	12	02	1	25	36	1後		2	
	キャリア形成Ⅰ	1	12	02	1	25	37	1前	2			
	キャリア形成Ⅱ	1	12	02	1	25	38	1後	2			
	キャリア形成Ⅲ	1	12	02	2	25	39	2前	2			
	キャリア形成Ⅳ	1	12	02	2	25	40	2後	2			
キャリア形成Ⅴ	1	12	02	3	25	41	3通		2			
基礎科目の合計									13	57	0	27単位以上修得すること。
専門基礎科目	基礎科目	現代社会と人間	1	12	03	1	25	42	1前	2		※「社会福祉政策」については、本学で社会福祉士、精神保健福祉士の各資格の取得を希望する場合は、必ず修得すること。
		文化人類学	1	12	03	1	25	43	1前		2	
		現代社会と福祉	1	12	03	1	25	44	1前	2		
		社会福祉政策	1	12	03	2	25	45	1後		2	
		現代社会学入門Ⅰ	1	12	03	2	25	46	1前	2		
		現代社会学入門Ⅱ	1	12	03	2	25	47	1後	2		
		基礎ゼミナールⅠ	1	12	03	1	25	48	1前	2		
		基礎ゼミナールⅡ	1	12	03	1	25	49	1後	2		
		基礎ゼミナールⅢ	1	12	03	2	25	50	2前	2		
	基礎ゼミナールⅣ	1	12	03	2	25	51	2後	2			
	基幹科目	心理学と心理的支援	1	12	03	1	25	52	1前		2	選択科目7科目から6単位以上修得すること。 ただし、本学で社会福祉士、精神保健福祉士、社会調査士の各資格の取得を希望する場合は、取得要件を確認して、必要な科目を必ず修得すること。
		医学概論	1	12	03	1	25	53	1後		2	
		法学概論	1	12	03	2	25	54	1前		2	
		経済学概論	1	12	03	2	25	55	1前		2	
		社会学史	1	12	03	2	25	56	1後		2	
		政治学	1	12	03	2	25	57	1後		2	
		社会学と社会システム	1	12	03	2	25	58	1前	2		
		社会調査の基礎	1	12	03	2	25	59	1後	2		
		社会調査法	1	12	03	2	25	60	2前		2	
専門基礎科目の合計									20	18	0	

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】
【現代社会学科・社会学専攻】

授業科目の名称		ナンバリング					配当年次	単位数			備考		
		学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度		ナンバー	必修	選択		自由	
専門科目	社会学名論	労働と社会	1	12	04	2	25	61	2前	2			
		地域社会学	1	12	04	2	25	62	2前	2			
		異文化コミュニケーション論	1	12	04	2	25	63	2前	2			
		情報技術と社会	1	12	04	2	25	64	2前	2			
		スポーツと社会	1	12	04	2	25	65	2前	2			
		食と社会	1	12	04	2	25	66	2前	2			
		メディア社会論	1	12	04	3	25	67	2後	2			
		家族社会学	1	12	04	3	25	68	2後	2			
		ジェンダー社会学	1	12	04	3	25	69	2後	2			
		都市社会学	1	12	04	2	25	70	2後	2			
		マスコミュニケーション論	1	12	04	3	25	71	2後	2			
		社会保障概論	1	12	04	2	25	72	2前	2			
		国際社会論	1	12	04	3	25	73	2後	2			
		教育社会学	1	12	04	3	25	74	3前	2			
		非営利組織論	1	12	04	3	25	75	3前	2			
		医療社会学	1	12	04	3	25	76	3後	2			
		災害と社会	1	12	04	3	25	77	3後	2			
		日本社会とマイノリティ 社会的アイデンティティ論	1	12	04	3	25	78	3後	2			
				1	12	04	3	25	79	3後	2		
		と方法	社会調査の理論	データ分析の基礎	1	12	04	2	25	80	2前		2
社会と統計	1			12	04	2	25	81	2前	2			
量的調査法	1			12	04	3	25	82	2後	2			
質的調査法	1			12	04	3	25	83	2後	2			
社会調査Ⅰ	1			12	04	3	25	84	3前	2			
社会調査Ⅱ	1			12	04	3	25	85	3後	2			
展開科目	現代社会研究	現代社会Ⅰ	1	12	04	3	25	86	3前	2		選択科目 8科目から4単位以上修得すること。	
		現代社会Ⅱ	1	12	04	3	25	87	3前	2			
		現代社会Ⅲ	1	12	04	3	25	88	3前	2			
		現代社会Ⅳ	1	12	04	3	25	89	3前	2			
		現代社会Ⅴ	1	12	04	4	25	90	3後	2			
		現代社会Ⅵ	1	12	04	4	25	91	3後	2			
		現代社会Ⅶ	1	12	04	4	25	92	3後	2			
		現代社会Ⅷ	1	12	04	4	25	93	3後	2			
地域と東北を学ぶ	地域文化論	地域文化論	1	12	04	2	25	94	2前	2			
		環境と社会	1	12	04	2	25	95	2前	2			
		農と社会	1	12	04	3	25	96	2後	2			
		東北文化論	1	12	04	4	25	97	3前	2			
		観光と社会	1	12	04	4	25	98	3前	2			
		地域と民俗	1	12	04	4	25	99	3後	2			
		復興のまちづくり	1	12	04	4	25	100	3後	2			
		地域社会と国際化	1	12	04	4	25	101	3後	2			
関連科目	生涯発達心理学	生涯発達心理学	1	12	04	2	25	102	2前	2			
		健康心理学	1	12	04	2	25	103	2後	2			
		社会心理学	1	12	04	3	25	104	3前	2			
		コミュニティ心理学	1	12	04	3	25	105	3後	2			
		社会保障Ⅰ	1	12	04	2	25	106	2前	2			
		社会保障Ⅱ	1	12	04	2	25	107	2後	2			
		障がいと社会	1	12	04	2	25	108	2後	2			
		エイジングと社会	1	12	04	2	25	109	2後	2			
		児童福祉と社会	1	12	04	2	25	110	2後	2			
		レクリエーション実技Ⅰ	1	12	04	2	25	111	2前	1			
		レクリエーション実技Ⅱ	1	12	04	2	25	112	2後	1			
		レクリエーション現場実習	1	12	04	2	25	113	2通	1			
		貧困に対する支援	1	12	04	3	25	114	3前	2			
		地域社会健康論	1	12	04	3	25	115	3前	2			
地域社会健康演習	1	12	04	3	25	116	3後	2					
専門研究	専門ゼミナールⅠ	専門ゼミナールⅠ	1	12	04	4	25	117	3前	2			
		専門ゼミナールⅡ	1	12	04	4	25	118	3後	2			
		卒研指導ゼミナールⅠ	1	12	04	4	25	119	4前	2			
		卒研指導ゼミナールⅡ	1	12	04	4	25	120	4後	2			
		卒業論文	1	12	04	4	25	121	4通	4			
専門科目の合計								8	113	0	12単位以上修得すること。		
現代社会学科 社会学専攻の総合計								41	188	0	124単位以上修得すること。		

区分	卒業要件単位数			
	必修	選択		
		選択必修	区分別要件	区分問わず
基礎科目	13	4	10	(※2)
専門基礎科目	20	6	(※1)	左記に加えて 20単位以上
専門科目	8	4	39	
小計	41	14	69	
合計	124			

(※1) 専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、専門基礎科目及び専門科目から区分に関係なく39単位以上を修得しなければならない。

(※2) 基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく20単位以上を修得しなければならない。

V 学部、学科案内

2021～2024 年度入学者用

【現代社会学部】

[現代社会学科・社会学専攻]

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度		ナンバー	必修	選択	
教養・基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	12	01	1	21	1	1通		3	選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	12	01	1	21	2	1前・1後		2	
		人間文化探求	1	12	01	1	21	3	1通		2	
		生活の中の科学	1	12	01	1	21	4	1前・1後		2	
		地域活動・ボランティア	1	12	01	1	21	5	1通		2	
		現代社会を視る	1	12	01	1	21	6	1前・1後		2	
		ボランティア探求	1	12	01	2	21	7	2通		2	
	教養科目	現代文章表現	1	12	02	1	21	8	1前	2		
		現代文章作法	1	12	02	1	21	9	1後	2		
		哲学	1	12	02	1	21	10	1前		2	
		文学	1	12	02	1	21	11	1前		2	
		芸術論	1	12	02	1	21	12	1前		2	
		現代史	1	12	02	1	21	13	1前		2	
		東北の歴史	1	12	02	1	21	14	1後		2	
		心理学と心理的支援	1	12	02	1	21	15	1前	2		
		コミュニケーション論	1	12	02	1	21	16	1後		2	
		文化人類学	1	12	02	1	21	17	1前		2	
		教育学	1	12	02	1	21	18	1後		2	
		憲法	1	12	02	1	21	19	1後		2	
		健康科学	1	12	02	1	21	20	1前		2	
		基礎生物学	1	12	02	1	21	21	1前		2	
	生命倫理学	1	12	02	1	21	22	1後		2		
	環境論入門	1	12	02	1	21	23	1後		2		
	地球科学	1	12	02	1	21	24	1後		2		
	医学概論	1	12	02	1	21	25	1後	2			
	情報リテラシー基礎	1	12	02	1	21	26	1前	1			
	情報リテラシー応用	1	12	02	1	21	27	1後	1			
外国語	英語Ⅰ	1	12	02	1	21	28	1前	1			
	英語Ⅱ	1	12	02	1	21	29	1後	1			
	英語Ⅲ	1	12	02	2	21	30	2前		1		
	英語Ⅳ	1	12	02	2	21	31	2後		1		
	中国語Ⅰ	1	12	02	1	21	32	1前		1		
	中国語Ⅱ	1	12	02	1	21	33	1後		1		
	韓国語Ⅰ	1	12	02	1	21	34	1前		1		
	韓国語Ⅱ	1	12	02	1	21	35	1後		1		
海外研修	1	12	02	1	21	36	1通		2			
健康運動科目	健康スポーツ実技	1	12	02	1	21	37	1前	1			
	夏季野外活動実習	1	12	02	1	21	38	1前		1		
	冬季野外活動実習	1	12	02	1	21	39	1後		1		
	アダプテッド・スポーツ論	1	12	02	1	21	40	1後		2		
	アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	12	02	1	21	41	1前		1		
レクリエーション理論	1	12	02	1	21	42	1後		2			
キャリア形成	キャリア形成Ⅰ	1	12	02	1	21	43	1前	2			
	キャリア形成Ⅱ	1	12	02	1	21	44	1後	2			
	キャリア形成Ⅲ	1	12	02	2	21	45	2前	2			
	キャリア形成Ⅳ	1	12	02	2	21	46	2後	2			
	キャリア形成Ⅴ	1	12	02	3	21	47	3通		2		
	キャリア形成Ⅵ	1	12	02	3	21	48	4通		2		
基礎科目の合計									21	62	27単位以上修得すること。	
専門基礎科目	基礎科目	現代社会と人間	1	12	03	1	21	49	1前	2		
		現代社会と福祉	1	12	03	1	21	50	1前	2		
		社会福祉政策	1	12	03	2	21	51	1後	2		
		共生社会論	1	12	03	2	21	52	1後	2		
		現代社会基礎演習Ⅰ	1	12	03	1	21	53	1通	2		
		現代社会基礎演習Ⅱ	1	12	03	2	21	54	2通	2		
	基幹科目	社会学と社会システム	1	12	03	2	21	55	1前	2		
		法学概論	1	12	03	2	21	56	1前		2	
		経済学概論	1	12	03	2	21	57	1前		2	
		政治学	1	12	03	2	21	58	1後		2	
		社会学史	1	12	03	2	21	59	1後	2		
		社会調査の基礎	1	12	03	2	21	60	1後	2		
社会調査法	1	12	03	2	21	61	2前		2			
専門基礎科目の合計									18	8		

2021～2024 年度入学者用

【現代社会学部】
 [現代社会学科・社会学専攻]

授業科目の名称		ナンバリング						配当年次	単位数			備考	
		学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度	ナンバー		必修	選択	自由		
専門科目	理論と方法	産業と労働の社会学	1	12	04	2	21	62	2前		2	選択科目8科目から4単位以上修得すること。	
		地域社会学	1	12	04	2	21	63	2前		2		
		都市社会学	1	12	04	2	21	64	2前		2		
		データ分析の基礎	1	12	04	2	21	65	2前		2		
		社会と統計	1	12	04	2	21	66	2前		2		
		メディア社会学	1	12	04	2	21	67	2前		2		
		量的調査法	1	12	04	3	21	68	2後		2		
		質的調査法	1	12	04	3	21	69	2後		2		
		家族社会学	1	12	04	3	21	70	2後		2		
		ジェンダー社会学	1	12	04	3	21	71	2後		2		
		情報社会論	1	12	04	3	21	72	2後		2		
		マスコミュニケーション論	1	12	04	3	21	73	2後		2		
		教育社会学	1	12	04	3	21	74	3前		2		
		医療社会学	1	12	04	3	21	75	3後		2		
		非営利組織論	1	12	04	3	21	76	3前		2		
		防災の社会学	1	12	04	3	21	77	3後		2		
		社会調査演習	1	12	04	3	21	78	2通		2		
社会調査実習	1	12	04	4	21	79	3通		4				
展開科目	課題研究	現代社会Ⅰ	1	12	04	3	21	80	3前		2		
		現代社会Ⅱ	1	12	04	3	21	81	3前		2		
		現代社会Ⅲ	1	12	04	3	21	82	3前		2		
		現代社会Ⅳ	1	12	04	3	21	83	3前		2		
		現代社会Ⅴ	1	12	04	4	21	84	3後		2		
		現代社会Ⅵ	1	12	04	4	21	85	3後		2		
		現代社会Ⅶ	1	12	04	4	21	86	3後		2		
		現代社会Ⅷ	1	12	04	4	21	87	3後		2		
東北社会研究		地域文化論	1	12	04	2	21	88	2前		2		
		東北文化論	1	12	04	4	21	89	3前		2		
		東北の民俗	1	12	04	4	21	90	3後		2		
		環境と農業	1	12	04	3	21	91	2前		2		
		持続的農業論	1	12	04	3	21	92	2後		2		
		グリーンツーリズム論	1	12	04	4	21	93	3前		2		
		復興のまちづくり	1	12	04	4	21	94	3後		2		
関連科目		生涯発達心理学	1	12	04	2	21	95	2前		2		
		健康心理学	1	12	04	2	21	96	2後		2		
		社会心理学	1	12	04	3	21	97	3前		2		
		コミュニティ心理学	1	12	04	3	21	98	3後		2		
		社会保障Ⅰ	1	12	04	2	21	99	2前		2		
		社会保障Ⅱ	1	12	04	2	21	100	2後		2		
		障害者支援論	1	12	04	2	21	101	2後		2		
		高齢者支援論	1	12	04	2	21	102	2後		2		
		児童・家庭支援論	1	12	04	2	21	103	2後		2		
		レクリエーション実技Ⅰ	1	12	04	2	21	104	2前		1		
		レクリエーション実技Ⅱ	1	12	04	2	21	105	2後		1		
		レクリエーション現場実習	1	12	04	2	21	106	2通		1		
		介護予防論	1	12	04	3	21	107	3前		2		
介護予防実習	1	12	04	3	21	108	3後		1				
卒業研究		専門演習Ⅰ	1	12	04	4	21	109	3前	2			
		専門演習Ⅱ	1	12	04	4	21	110	3後	2			
		卒業研究	1	12	04	4	21	111	4通	4			
専門科目の合計									8	92			
		総合計								47	162	0	124単位以上修得すること。

区 分	卒業要件単位数	
	必修	選択
教養・基礎科目	21	6
専門基礎科目	18	71
専門科目	8	
小 計	47	77
合 計	124	

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】

【現代社会学科・社会福祉学専攻】

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備考
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度		ナンバー	必修	選択	
基礎科目	シエク・理解プロ	輝ける者	1	12	01	1	25	1	1通		2	選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	12	01	1	25	2	1前・1後		2	
		現代社会を視る	1	12	01	1	25	3	1前・1後		2	
		生活の中の科学	1	12	01	1	25	4	1前・1後		2	
		経済・法律・世界を視る	1	12	01	1	25	5	1前・1後		2	
		社会活動入門	1	12	01	1	25	6	1前・1後		2	
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	7	1前	1		選択科目5科目から2単位以上修得すること。
		英語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	8	1後	1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	9	1前		1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	10	1後		1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1	12	02	1	25	11	1前		1	
		中国語コミュニケーションⅡ	1	12	02	1	25	12	1後		1	
		海外研修	1	12	02	1	25	13	1通		2	
		スポーツ実技	1	12	02	1	25	14	1後		1	
		心理学概論	1	12	02	1	25	15	1前		2	
		生命倫理学	1	12	02	1	25	16	1後		1	
		健康科学	1	12	02	1	25	17	1前	1		
		教育学	1	12	02	1	25	18	1後		2	
		哲学	1	12	02	1	25	19	1前		2	
		現代史	1	12	02	1	25	20	1後		2	
		東北の歴史	1	12	02	1	25	21	1前		2	
	ジェンダー論	1	12	02	1	25	22	1前		2		
	健康スポーツ	生活の中の物理学	1	12	02	1	25	23	1前		2	
		生活の中の化学	1	12	02	1	25	24	1後		2	
		生活の中の生物学	1	12	02	1	25	25	1後		2	
		生活と地球科学	1	12	02	1	25	26	1前		2	
		データサイエンス入門	1	12	02	1	25	27	1前	2		
		コミュニケーション論	1	12	02	1	25	28	1後		2	
		憲法と法律	1	12	02	1	25	29	1後		2	
		生活と経済	1	12	02	1	25	30	1前		2	
		教養としての政治学	1	12	02	1	25	31	1前		2	
		キャリア形成	1	12	02	1	25	32	1前		1	
	キャリア形成	夏季野外活動実習	1	12	02	1	25	33	1後		1	
		冬季野外活動実習	1	12	02	1	25	34	1後		2	
		アダプテッド・スポーツ論	1	12	02	1	25	35	1前		1	
		アダプテッド・スポーツ基礎実習	1	12	02	1	25	35	1前		1	
		レクリエーション理論	1	12	02	1	25	36	1後		2	
	キャリア形成Ⅰ	1	12	02	1	25	37	1前	2			
	キャリア形成Ⅱ	1	12	02	1	25	38	1後	2			
	キャリア形成Ⅲ	1	12	02	2	25	39	2前	2			
	キャリア形成Ⅳ	1	12	02	2	25	40	2後	2			
キャリア形成Ⅴ	1	12	02	3	25	41	3通		2			
基礎科目の合計									13	57	0	27単位以上修得すること。
専門基礎科目	基礎科目	現代社会と人間	1	12	03	1	25	42	1前	2		※「社会福祉政策」については、本学で社会福祉士、精神保健福祉士の各資格の取得を希望する場合は、必ず修得すること。
		文化人類学	1	12	03	1	25	43	1前		2	
		現代社会と福祉	1	12	03	1	25	44	1前	2		
		社会福祉政策	1	12	03	2	25	45	1後		2	
		現代社会学入門Ⅰ	1	12	03	2	25	46	1前	2		
		現代社会学入門Ⅱ	1	12	03	2	25	47	1後	2		
		基礎ゼミナールⅠ	1	12	03	1	25	48	1前	2		
		基礎ゼミナールⅡ	1	12	03	1	25	49	1後	2		
		基礎ゼミナールⅢ	1	12	03	2	25	50	2前	2		
	基礎ゼミナールⅣ	1	12	03	2	25	51	2後	2			
	基幹科目	心理学と心理的支援	1	12	03	1	25	52	1前		2	選択科目7科目から6単位以上修得すること。 ただし、本学で社会福祉士、精神保健福祉士、社会調査士の各資格の取得を希望する場合は、取得要件を確認して、必要な科目を必ず修得すること。
		医学概論	1	12	03	1	25	53	1後		2	
		法学概論	1	12	03	2	25	54	1前		2	
		経済学概論	1	12	03	2	25	55	1前		2	
		社会学史	1	12	03	2	25	56	1後		2	
		政治学	1	12	03	2	25	57	1後		2	
		社会学と社会システム	1	12	03	2	25	58	1前	2		
		社会調査の基礎	1	12	03	2	25	59	1後	2		
		社会調査法	1	12	03	2	25	60	2前		2	
専門基礎科目の合計									20	18	0	

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】

【現代社会学科・社会福祉学専攻】

授業科目の名称		ナンバリング						配当年次	単位数			備考	
		学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由		
専門科目	福祉士共通科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1	12	04	2	25	61	2前	2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1	12	04	2	25	62	2前	2			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	1	12	04	2	25	63	2後	2			
		社会保障Ⅰ	1	12	04	2	25	64	2前	2			
		社会保障Ⅱ	1	12	04	2	25	65	2後	2			
		障害者福祉	1	12	04	2	25	66	2前	2			
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	1	12	04	2	25	67	2後	2			
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	1	12	04	3	25	68	3前	2			
		権利擁護を支える法制度	1	12	04	2	25	69	2後	2			
		刑事司法と福祉	1	12	04	3	25	70	3前	2			
ソーシャルワーク基礎演習	1	12	04	2	25	71	2前	1					
ソーシャルワーク系科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1	12	04	2	25	72	2後	2				
	児童・家庭福祉	1	12	04	2	25	73	2前	2				
	高齢者福祉	1	12	04	2	25	74	2前	2				
	福祉サービスの組織と経営	1	12	04	3	25	75	3前		2			
	貧困に対する支援	1	12	04	3	25	76	3前		2			
	保健医療と福祉	1	12	04	2	25	77	2前		2			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	1	12	04	3	25	78	3前		2			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	1	12	04	3	25	79	3後		2			
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1	12	04	2	25	80	2後		1			
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	1	12	04	3	25	81	3前		1			
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	1	12	04	3	25	82	3後		1			
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	1	12	04	4	25	83	4後		1			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	12	04	2	25	84	2後		1			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	12	04	3	25	85	3前		1			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	12	04	4	25	86	4後		1			
ソーシャルワーク実習Ⅰ	1	12	04	4	25	87	3後		2				
ソーシャルワーク実習Ⅱ	1	12	04	4	25	88	4通		4				
メンタルヘルス系科目	精神医学Ⅰ	1	12	04	2	25	89	2前		2			
	精神医学Ⅱ	1	12	04	2	25	90	2後		2			
	精神保健学Ⅰ	1	12	04	3	25	91	3前		2			
	精神保健学Ⅱ	1	12	04	3	25	92	3後		2			
	精神保健福祉の原理Ⅰ	1	12	04	2	25	93	2前		2			
	精神保健福祉の原理Ⅱ	1	12	04	2	25	94	2後		2			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅴ	1	12	04	3	25	95	3前		2			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅵ	1	12	04	3	25	96	3後		2			
	精神障害リハビリテーション論	1	12	04	3	25	97	3前		2			
	精神保健福祉制度論	1	12	04	2	25	98	2後		2			
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	1	12	04	3	25	99	3前		1			
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	1	12	04	3	25	100	3後		1			
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	1	12	04	4	25	101	4通		1			
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	1	12	04	2	25	102	2後		1			
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	1	12	04	3	25	103	3通		1			
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	1	12	04	4	25	104	4通		1			
精神保健福祉援助実習Ⅰ	1	12	04	4	25	105	3後		3				
精神保健福祉援助実習Ⅱ	1	12	04	4	25	106	4通		2				
専門職連携科目	チーム医療福祉論	1	12	04	2	25	107	2後		1			
	専門職連携論	1	12	04	3	25	108	3前	2				
	専門職連携セミナー	1	12	04	3	25	109	3後		1			
	生活支援工学	1	12	04	2	25	110	2後		2			
	地域医療マネジメントⅠ	1	12	04	3	25	111	3前		2			
	地域医療マネジメントⅡ	1	12	04	3	25	112	3後		2			
	スクールソーシャルワーク論	1	12	04	3	25	113	3前		2			
	スクールソーシャルワーク演習	1	12	04	3	25	114	3後		1			
	スクールソーシャルワーク実習指導	1	12	04	4	25	115	4前		1			
	スクールソーシャルワーク実習	1	12	04	4	25	116	4通		2			
関連科目	障害者支援論	1	12	04	2	25	117	2後		2			
	児童・家庭支援論	1	12	04	2	25	118	2後		2			
	高齢者支援論	1	12	04	2	25	119	2後		2			
	生涯発達心理学	1	12	04	2	25	120	2前		2			
	健康心理学	1	12	04	2	25	121	2後		2			
	社会心理学	1	12	04	3	25	122	3前		2			
	コミュニティ心理学	1	12	04	3	25	123	3後		2			
レクリエーション実技Ⅰ	1	12	04	2	25	124	2前		1				

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【現代社会学部】

【現代社会学科・社会福祉学専攻】

授業科目の名称		ナンバリング						配当年次	単位数			備考
		学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目 関連科目	レクリエーション実技Ⅱ	1	12	04	2	25	125	2 後		1		
	レクリエーション現場実習	1	12	04	2	25	126	2 通		1		
	地域社会健康論	1	12	04	3	25	127	3 前		2		
	地域社会健康演習	1	12	04	3	25	128	3 後		2		
	非営利組織論	1	12	04	3	25	129	3 前		2		
	災害と社会	1	12	04	3	25	130	3 後		2		
	復興のまちづくり	1	12	04	4	25	131	3 後		2		
専門研究	専門ゼミナールⅠ	1	12	04	4	25	132	3 前	2			
	専門ゼミナールⅡ	1	12	04	4	25	133	3 後	2			
	卒研指導ゼミナールⅠ	1	12	04	4	25	134	4 前	2			
	卒研指導ゼミナールⅡ	1	12	04	4	25	135	4 後	2			
	卒業論文	1	12	04	4	25	136	4 通		4		
専門科目の合計									37	99	0	37 単位以上修得すること。
現代社会学科 社会福祉学専攻の総合計									70	174	0	124 単位以上修得すること。

区分	卒業要件単位数			
	必修	選択		
		選択必修	区分別要件	区分問わず
基礎科目	13	4	10	（※2） 左記に加えて 20 単位以上
専門基礎科目	20	6	（※1）	
専門科目	37	—	14	
小計	70	10	44	
合計	124			

（※1）専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位数以上を修得した上で、専門基礎科目及び専門科目から区分に関係なく 14 単位以上を修得しなければならない。

（※2）基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位数以上を修得した上で、残りは区分に関係なく 20 単位以上を修得しなければならない。

2025 年度以降入学者用

【経営法学部】
【経営法学科】

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	08	01	1	25	1	1通		2	選択科目6科目から2単位以上修得すること。	
		生命を考える	1	08	01	1	25	2	1前・1後		2		
		現代社会を視る	1	08	01	1	25	3	1前・1後		2		
		生活の中の科学	1	08	01	1	25	4	1前・1後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	08	01	1	25	5	1前・1後		2		
		社会活動入門	1	08	01	1	25	6	1前・1後		2		
		全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	08	02	1	25	7	1前	1		
	英語コミュニケーションⅡ		1	08	02	1	25	8	1後	1			
	韓国語コミュニケーションⅠ		1	08	02	1	25	9	1前		1		
	韓国語コミュニケーションⅡ		1	08	02	1	25	10	1後		1		
	中国語コミュニケーションⅠ		1	08	02	1	25	11	1前		1		
	中国語コミュニケーションⅡ		1	08	02	1	25	12	1後		1		
	海外研修		1	08	02	1	25	13	1通		2		
	スポーツ実技		1	08	02	1	25	14	1前		1		
	心理学概論		1	08	02	1	25	15	1後		2		
	生命倫理学		1	08	02	1	25	16	1後		1		
	健康科学		1	08	02	1	25	17	1前	1			
	教育学		1	08	02	1	25	18	1後		2		
	哲学		1	08	02	1	25	19	1後		2		
	現代史	1	08	02	1	25	20	1前		2			
	東北の歴史	1	08	02	1	25	21	1前		2			
	ジェンダー論	1	08	02	1	25	22	1後		2			
	生活の中の物理学	1	08	02	1	25	23	1後		2			
	生活の中の化学	1	08	02	1	25	24	1前		2			
	生活の中の生物学	1	08	02	1	25	25	1前		2			
	生活と地球科学	1	08	02	1	25	26	1後		2			
	データサイエンス入門	1	08	02	1	25	27	1前	2				
	コミュニケーション論	1	08	02	1	25	28	1後		2			
	憲法と法律	1	08	02	1	25	29	1後		2			
	生活と経済	1	08	02	1	25	30	1後		2			
	教養としての政治学	1	08	02	1	25	31	1後		2			
	キャリア形成	キャリア入門Ⅰ	1	08	02	1	25	32	1前	2			
		キャリア入門Ⅱ	1	08	02	1	25	33	1後	2			
		キャリア戦略Ⅰ	1	08	02	2	25	34	2前	2			
		キャリア戦略Ⅱ	1	08	02	2	25	35	2後	2			
		キャリア戦略Ⅲ	1	08	02	3	25	36	3前		2		
		キャリア戦略Ⅳ	1	08	02	4	25	37	3後		2		
		業界・企業研究Ⅰ	1	08	02	2	25	38	2通		1		
		業界・企業研究Ⅱ	1	08	02	3	25	39	3通		1		
基礎科目の合計									13	54	0	24単位以上修得すること。	
専門基礎科目	基幹科目	経営学概論	1	08	03	2	25	40	1前	2			
		経済学概論	1	08	03	2	25	41	1前	2			
		法学概論	1	08	03	2	25	42	1前	2			
		初年次セミナー	1	08	03	1	25	43	1前	2			
		アカデミックスキルズ	1	08	03	2	25	44	1後	2			
		プレゼミナールⅠ	1	08	03	2	25	45	2前	2			
		プレゼミナールⅡ	1	08	03	3	25	46	2後	2			
	領域・経済	経営・経済事情	1	08	03	1	25	47	1前		2		
		マーケティング論	1	08	03	2	25	48	1後		2		
		ミクロ経済学	1	08	03	2	25	49	1後		2		

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【経営法学部】
【経営法学科】

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考	
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由		
専門基礎科目	経営・経済領域	経営戦略論	1	08	03	2	25	50	2前		2			
		マクロ経済学	1	08	03	2	25	51	2前		2			
		簿記論Ⅰ	1	08	03	2	25	52	1後		4			
		簿記論Ⅱ	1	08	03	2	25	53	2前		2			
		簿記論Ⅲ	1	08	03	2	25	54	2後		2			
	法学領域	民法総則	1	08	03	2	25	55	1後		2			
		憲法（人権）	1	08	03	2	25	56	1後		2			
		憲法（統治）	1	08	03	2	25	57	2前		2			
		契約法	1	08	03	2	25	58	2前		2			
		物権法	1	08	03	2	25	59	2前		2			
		刑法	1	08	03	2	25	60	2前		2			
	分析手法	統計・数理入門	1	08	03	1	25	61	1前		2			
		経営・経済のための数学	1	08	03	2	25	62	1後		2			
		統計学	1	08	03	2	25	63	2前		2			
		データ解析	1	08	03	3	25	64	2後		2			
	外国語	英語コミュニケーションⅢ	1	08	03	3	25	65	2前		1			
		英語コミュニケーションⅣ	1	08	03	4	25	66	2後		1			
		フィールドワーク英語Ⅰ	1	08	03	2	25	67	2前		1			
		フィールドワーク英語Ⅱ	1	08	03	3	25	68	2後		1			
		中国語コミュニケーションⅢ	1	08	03	3	25	69	2前		1			
		中国語コミュニケーションⅣ	1	08	03	4	25	70	2後		1			
		韓国語コミュニケーションⅢ	1	08	03	3	25	71	2前		1			
		韓国語コミュニケーションⅣ	1	08	03	4	25	72	2後		1			
	専門基礎科目の合計									14	46	0		32単位以上修得すること。
	専門科目	経営・経済領域	流通論	1	08	04	2	25	73	2前		2		
			中小企業論	1	08	04	4	25	74	2前		2		
			マーケティング戦略論	1	08	04	3	25	75	2前		2		
財務会計Ⅰ			1	08	04	3	25	76	2前		2			
経営組織論			1	08	04	3	25	77	2後		2			
経営史			1	08	04	3	25	78	2後		2			
マーケティングリサーチ			1	08	04	3	25	79	2後		2			
ファイナンシャル・プランニング (FP) 論			1	08	04	3	25	80	2後		2			
財務会計Ⅱ			1	08	04	3	25	81	2後		2			
金融論			1	08	04	3	25	82	2後		2			
財政学			1	08	04	3	25	83	2後		2			
組織行動論			1	08	04	4	25	84	3前		2			
ビジネスケース分析			1	08	04	4	25	85	3前		2			
グローバルマーケティング			1	08	04	4	25	86	3前		2			
管理会計			1	08	04	4	25	87	3前		2			
国際経済学			1	08	04	4	25	88	3前		2			
経営情報論			1	08	04	4	25	89	3後		2			
アントレプレナーシップ論			1	08	04	4	25	90	3後		2			
消費者行動入門			1	08	04	4	25	91	3後		2			
コーポレート・ファイナンス論		1	08	04	4	25	92	3後		2				
地域経済論		1	08	04	4	25	93	3後		2				
法学領域	不法行為法	1	08	04	3	25	94	2後		2				
	家族法	1	08	04	3	25	95	2後		2				
	消費者法	1	08	04	3	25	96	2後		2				
	会社法	1	08	04	4	25	97	3前		2				
	不動産法	1	08	04	4	25	98	3前		2				

2025 年度以降入学者用

【経営法学部】
【経営法学科】

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備考
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由	
専門科目	法学領域	行政法総論	1	08	04	4	25	99	3前		2		
		経済法	1	08	04	4	25	100	3前		2		
		国際取引法	1	08	04	3	25	101	3前		2		
		労働法	1	08	04	4	25	102	3後		2		
		知的財産権法	1	08	04	4	25	103	3後		2		
		行政救済法	1	08	04	4	25	104	3後		2		
		民事手続法	1	08	04	4	25	105	3後		2		
展開科目		応用データ解析	1	08	04	4	25	106	3前		2		
		政治学	1	08	04	2	25	107	3前		2		
		行政学	1	08	04	4	25	108	3後		2		
		医療福祉経済論	1	08	04	4	25	109	3前		2		
		医療政策論	1	08	04	4	25	110	3後		2		
		地域医療マネジメントⅠ	1	08	04	3	25	111	3前		2		
		地域医療マネジメントⅡ	1	08	04	4	25	112	3後		2		
		社会保障論	1	08	04	3	25	113	3前		2		
		多文化共生論	1	08	04	4	25	114	3後		2		
		韓国研究	1	08	04	4	25	115	3前		2		
		中国研究	1	08	04	4	25	116	3後		2		
		アメリカ研究	1	08	04	4	25	117	3後		2		
		プロジェクト研究	1	08	04	3	25	118	2通		4		
	プロジェクト応用	1	08	04	4	25	119	3通		4			
専門研究		専門ゼミナールⅠ	1	08	04	3	25	120	3前	2			
		専門ゼミナールⅡ	1	08	04	3	25	121	3後	2			
		卒業研究	1	08	04	4	25	122	4通	4			
専門科目の合計										8	98	0	48単位以上修得すること。
経営法学科の総合計										35	198	0	124単位以上修得すること。

区 分	卒業要件単位数		
	必修	選択	
		区分別要件	区分問わず
基礎科目	13	11	※左記に加えて20単位以上
専門基礎科目	14	18	
専門科目	8	40	
小 計	35	89	
合 計	124		

※教養・基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく20単位以上を修得しなければならない。

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【工学部】

【知能情報システム学科】

授業科目の名称			ナンバリング				配当年次	単位数			備考	
			学種	学科専攻	科目区分	難易度		カリキュラム年度	ナンバー	必修		選択
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	09	01	1	25	1	1通		2	選択科目6科目から2単位以上修得すること。
		生命を考える	1	09	01	1	25	2	1前・1後		2	
		現代社会を視る	1	09	01	1	25	3	1前・1後		2	
		生活の中の科学	1	09	01	1	25	4	1前・1後		2	
		経済・法律・世界を視る	1	09	01	1	25	5	1前・1後		2	
		社会活動入門	1	09	01	1	25	6	1前・1後		2	
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	09	02	1	25	7	1前	1		
		英語コミュニケーションⅡ	1	09	02	1	25	8	1後	1		
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	09	02	1	25	9	1前		1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	09	02	1	25	10	1後		1	
		中国語コミュニケーションⅠ	1	09	02	1	25	11	1前		1	
		中国語コミュニケーションⅡ	1	09	02	1	25	12	1後		1	
		海外研修	1	09	02	1	25	13	1通		2	
		スポーツ実技	1	09	02	1	25	14	1後		1	
		心理学概論	1	09	02	1	25	15	1前		2	
		生命倫理学	1	09	02	1	25	16	1後		1	
		健康科学	1	09	02	1	25	17	1前	1		
		教育学	1	09	02	1	25	18	1前		2	
		哲学	1	09	02	1	25	19	1後		2	
		現代史	1	09	02	1	25	20	1前		2	
		東北の歴史	1	09	02	1	25	21	1後		2	
	ジェンダー論	1	09	02	1	25	22	1前		2		
	生活の中の物理学	1	09	02	1	25	23	1後		2		
	生活の中の化学	1	09	02	1	25	24	1前		2		
	生活の中の生物学	1	09	02	1	25	25	1前		2		
	生活と地球科学	1	09	02	1	25	26	1後		2		
	データサイエンス入門	1	09	02	1	25	27	1後	2			
	コミュニケーション論	1	09	02	1	25	28	1前		2		
	憲法と法律	1	09	02	1	25	29	1後		2		
	生活と経済	1	09	02	1	25	30	1前		2		
	教養としての政治学	1	09	02	1	25	31	1後		2		
基礎科目の合計								5	48	0	28 単位以上修得すること。	
専門基礎科目	コンピュータ入門	1	09	03	1	25	32	1前	2			
	基礎数学Ⅰ	1	09	03	1	25	33	1前	2			
	情報数学Ⅰ	1	09	03	1	25	34	1前	2			
	情報倫理	1	09	03	1	25	35	1前	2			
	物理学Ⅰ	1	09	03	1	25	36	1前		2		
	基礎数学Ⅱ	1	09	03	1	25	37	1後	2			
	情報数学Ⅱ	1	09	03	1	25	38	1後	2			
	物理学Ⅱ	1	09	03	2	25	39	1後		2		
	プログラミング方法論Ⅰ	1	09	03	2	25	40	1後	2			
	プログラミング基礎演習Ⅰ	1	09	03	2	25	41	1後	2			
	プログラミング方法論Ⅱ	1	09	03	2	25	42	2前	2			
	プログラミング基礎演習Ⅱ	1	09	03	2	25	43	2前	2			
	電子工学概論	1	09	03	1	25	44	2前		2		
	知能情報システム実験	1	09	03	2	25	45	2前	2			
	コンピュータシステム	1	09	03	2	25	46	2前		2		
	システム工学	1	09	03	3	25	47	2前		2		
	応用数学	1	09	03	3	25	48	2後	2			
	コンピュータアーキテクチャ	1	09	03	2	25	49	2後		2		
	データ構造とアルゴリズム	1	09	03	3	25	50	2後	2			
	データ構造とアルゴリズム演習	1	09	03	3	25	51	2後	2			
	オブジェクト指向プログラミング	1	09	03	2	25	52	2後	2			
オペレーティングシステム	1	09	03	3	25	53	3前		2			
オブジェクト指向開発演習	1	09	03	3	25	54	3前	2				
ソフトウェア工学	1	09	03	3	25	55	3後		2			
専門基礎科目の合計								32	16	0	40 単位以上修得すること。	

2025 年度以降入学者用

【工学部】

【知能情報システム学科】

授業科目の名称			ナンバリング				配当年次	単位数			備考	
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度		カリキュラム 年度	ナンバー	必修		選択
専門科目	データサイエンス・情報ネットワーク	コンピュータネットワーク	1	09	04	2	25	56	2前	2		
		ネットワークシステム演習	1	09	04	3	25	57	2後		2	
		情報セキュリティ	1	09	04	3	25	58	3前		2	
		データベース論	1	09	04	4	25	59	3前		2	
		情報通信工学	1	09	04	4	25	60	3前		2	
		組み込みソフトウェア	1	09	04	4	25	61	3前		2	
		組み込みシステム実験	1	09	04	4	25	62	3前		2	
		分散システム	1	09	04	4	25	63	3後		2	
		Webシステム	1	09	04	4	25	64	3後		2	
		データサイエンス	1	09	04	4	25	65	3後	2		
	マルチメディア・知能ロボット	人工知能Ⅰ	1	09	04	3	25	66	2前		2	
		ロボット工学概論	1	09	04	3	25	67	2前	2		
		ロボット工学	1	09	04	4	25	68	2後		2	
		人工知能Ⅱ	1	09	04	4	25	69	2後		2	
		マルチメディア工学	1	09	04	3	25	70	2後	2		
		画像処理工学	1	09	04	4	25	71	3前		2	
		情報デザイン	1	09	04	4	25	72	3前		2	
		情報デザイン演習	1	09	04	4	25	73	3後		2	
		音響信号処理工学	1	09	04	3	25	74	3後		2	
コンピュータグラフィックス	1	09	04	4	25	75	3後		2			
専門科目の合計								8	32	0	24 単位以上修得すること。	
研修科目	基礎セミナー	1	09	07	1	25	76	1前	1			
	キャリアデザイン	1	09	07	1	25	77	1前		2		
	情報社会基礎	1	09	07	2	25	78	2前	1			
	キャリアアップⅠ	1	09	07	1	25	79	2前		2		
	キャリアアップⅡ	1	09	07	1	25	80	2後		2		
	情報社会応用	1	09	07	3	25	81	3前	1			
	知能情報システム特別講義Ⅰ	1	09	07	1	25	82	3前		1		
	知能情報システム特別講義Ⅱ	1	09	07	1	25	83	3後		1		
	キャリアサポート	1	09	07	1	25	84	3後	2			
	インターンシップⅠ	1	09	07	1	25	85	1・2・3・4通		1		
	インターンシップⅡ	1	09	07	1	25	86	1・2・3・4通		1		
	特別講義Ⅰ	1	09	07	1	25	87	1・2・3・4通		1		
	特別講義Ⅱ	1	09	07	1	25	88	1・2・3・4通		1		
	応用情報セミナー	1	09	07	4	25	89	3後	1			
	卒業研究Ⅰ	1	09	07	4	25	90	4前	4			
卒業研究Ⅱ	1	09	07	4	25	91	4後	4				
研修科目の合計								14	12	0	18 単位以上修得すること。	
知能情報システム学科の総合計								59	108	0	124 単位以上修得すること。	

区 分	卒業要件単位数		
	必修	選択	
		区分別要件	区分問わず
基礎科目	5	23	14
専門基礎科目	32	8	
専門科目	8	16	
研修科目	14	4	
小 計	59	51	14
合 計	124		

※必修 59 単位＋選択（区分別要件）51 単位＋選択（区分問わず）14 単位＝124 単位

2025 年度以降入学者用

【工学部】

〔建築環境学科〕

授業科目の名称			ナンバリング						配当年次	単位数			備 考
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由	
基礎科目	探求・理解プロジェクト	輝ける者	1	10	01	1	25	1	1通		2	選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。	
		生命を考える	1	10	01	1	25	2	1前・1後		2		
		現代社会を視る	1	10	01	1	25	3	1前・1後		2		
		生活の中の科学	1	10	01	1	25	4	1前・1後		2		
		経済・法律・世界を視る	1	10	01	1	25	5	1前・1後		2		
		社会活動入門	1	10	01	1	25	6	1前・1後		2		
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	10	02	1	25	7	1前	1		選択科目 12 科目から 3 単位以上修得すること	
		英語コミュニケーションⅡ	1	10	02	1	25	8	1後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	10	02	1	25	9	2前		1		
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	10	02	1	25	10	2後		1		
		中国語コミュニケーションⅠ	1	10	02	1	25	11	2前		1		
		中国語コミュニケーションⅡ	1	10	02	1	25	12	2後		1		
		海外研修	1	10	02	1	25	13	1通		2		
		スポーツ実技	1	10	02	1	25	14	1前		1		
		心理学概論	1	10	02	1	25	15	1後		2		
		生命倫理学	1	10	02	1	25	16	2前		1		
		健康科学	1	10	02	1	25	17	1前	1			
		生活の中の物理学	1	10	02	1	25	18	2後		2		
		生活の中の化学	1	10	02	1	25	19	2前		2		
		生活の中の生物学	1	10	02	1	25	20	1前		2		
		生活と地球科学	1	10	02	1	25	21	1後		2		
	データサイエンス入門	1	10	02	1	25	22	1後	2				
	基礎科目	教育学	1	10	02	1	25	23	2後		2	選択科目 9 科目から 2 単位以上修得すること。	
		哲学	1	10	02	1	25	24	2前		2		
		現代史	1	10	02	1	25	25	1後		2		
		東北の歴史	1	10	02	1	25	26	1前		2		
		ジェンダー論	1	10	02	1	25	27	2後		2		
		コミュニケーション論	1	10	02	1	25	28	2前		2		
		憲法と法律	1	10	02	1	25	29	1後		2		
		生活と経済	1	10	02	1	25	30	1前		2		
		教養としての政治学	1	10	02	1	25	31	2前		2		
基礎科目の合計									5	48	0	12 単位以上修得すること。	
専門基礎科目	基礎理論	建築史	1	10	03	1	25	32	1前	2	58 単位修得すること。		
		建築計画Ⅰ	1	10	03	1	25	33	1後	2			
		建築環境工学Ⅰ	1	10	03	1	25	34	1後	2			
		構造力学Ⅰ	1	10	03	1	25	35	1後	2			
		構造力学Ⅱ	1	10	03	2	25	36	2前	2			
		建築構法Ⅰ	1	10	03	2	25	37	2前	2			
		建築計画Ⅱ	1	10	03	2	25	38	2前	2			
		建築環境工学Ⅱ	1	10	03	2	25	39	2前	2			
		建築法規Ⅰ	1	10	03	2	25	40	2後	2			
		建築構法Ⅱ	1	10	03	2	25	41	2後	2			
		インテリア環境Ⅰ	1	10	03	2	25	42	2後	2			
		建築設備Ⅰ	1	10	03	2	25	43	2後	2			
		建築法規Ⅱ	1	10	03	3	25	44	3前	2			
		建築施工Ⅰ	1	10	03	3	25	45	3前	2			
	基礎技能	建築設備Ⅱ	1	10	03	3	25	46	3前	2			
		建築材料演習	1	10	03	3	25	47	3前	2			
		都市環境デザイン	1	10	03	3	25	48	3前	2			
		建築数学基礎	1	10	03	1	25	49	1前	2			
		建築情報リテラシー	1	10	03	1	25	50	1前	2			
		表現技法 A	1	10	03	1	25	51	1前	2			
		建築インテリア製図Ⅰ	1	10	03	1	25	52	1前	2			
		環境数理基礎 A	1	10	03	1	25	53	1後	2			
		建築インテリア製図Ⅱ	1	10	03	1	25	54	1後	2			
		建築 CAD	1	10	03	2	25	55	2前	2			
		環境数理基礎 B	1	10	03	2	25	56	2前	2			
		建築インテリア製図Ⅲ	1	10	03	2	25	57	2前	2			
		表現技法 B	1	10	03	2	25	58	2後	2			
建築インテリア製図Ⅳ	1	10	03	2	25	59	2後	2					
建築 CG	1	10	03	2	25	60	2後	2					
専門基礎科目の合計									58	0	0	58 単位修得すること。	

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【工学部】

〔建築環境学科〕

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備 考	
			学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度		ナンバー	必修	選択		自由
専門科目	専門基礎／ キャリア形成	建築探究	1	10	04	1	25	61	1前	2			
		建築環境学 A	1	10	04	1	25	62	1前	2			
		建築環境学 B	1	10	04	1	25	63	1後	2			
		建築環境学演習Ⅰ	1	10	04	2	25	64	2前	2			
		建築環境学演習Ⅱ	1	10	04	2	25	65	2後	2			
		環境技術と建設産業	1	10	04	3	25	66	3前	2			
		建設キャリア形成論	1	10	04	3	25	67	3後	2			
		サステナブル論	1	10	04	3	25	68	4後	2			
		専門選択 (実務系科目)	建築デザインⅠ	1	10	04	3	25	69	3前		2	
	インテリア環境Ⅱ		1	10	04	3	25	70	3前		2		○
	建築施工Ⅱ		1	10	04	3	25	71	3後		2		○
	ストラクチャーデザイン		1	10	04	3	25	72	3後		2		○
	建築デザインⅡ		1	10	04	3	25	73	3後		2		○
	居住福祉論		1	10	04	3	25	74	3後		2		○
	空気調和設備		1	10	04	3	25	75	3後		2		●
	給排水設備		1	10	04	3	25	76	3後		2		●
	電気設備		1	10	04	3	25	77	3後		2		●
	設備製図		1	10	04	3	25	78	3後		2		●
	環境設備演習	1	10	04	3	25	79	3後		2		●	
建築実務	1	10	04	3	25	80	4前		2				
設備施工	1	10	04	3	25	81	4前		2				
設備設計演習	1	10	04	3	25	82	4前		2				
専門科目の合計									16	28	0	26 単位以上修得すること。	
研修科目	特定実習	特定実習 A	1	10	07	1	25	83	1・2・3・4通		1		
		特定実習 B	1	10	07	1	25	84	1・2・3・4通		1		
		特定実習 C	1	10	07	1	25	85	1・2・3・4通		1		
	配属研修	卒研セミナーⅠ	1	10	07	3	25	86	3前		2		
		卒研セミナーⅡ	1	10	07	3	25	87	3後		2		
		卒業研修Ⅰ	1	10	07	4	25	88	4前		4		
卒業研修Ⅱ	1	10	07	4	25	89	4後		4				
研修科目の合計									12	3	0	12 単位以上修得すること。	
建築環境学科の総合計									91	79	0	124 単位以上修得すること。	

区 分	卒業要件単位数		
	必修	選択	
		区分別要件	区分問わず
基礎科目	5	7	※左記に加えて16単位以上
専門基礎科目	58	—	
専門科目	16	10	
研修科目	12	—	
小 計	91	17	16
合 計	124		

※基礎科目、専門基礎科目及び専門科目から、区分毎に定められた最低単位以上を修得した上で、残りは区分に関係なく16単位以上を修得しなければならない。

2025 年度以降入学者用

【工学部】 【臨床工学科】

授業科目の名称	ナンバリング						配当年次	単 位 数			備 考		
	学種	学科 専攻	科目 区分	難易度	カリキュラム 年度	ナンバー		必修	選択	自由			
基礎科目 探究・理解プロジェクト	輝ける者	1	11	01	1	25	1	1通		2	選択科目 6 科目から 2 単位以上修得すること。		
	生命を考える	1	11	01	1	25	2	1前・1後		2			
	現代社会を視る	1	11	01	1	25	3	1前・1後		2			
	生活の中の科学	1	11	01	1	25	4	1前・1後		2			
	経済・法律・世界を視る	1	11	01	1	25	5	1前・1後		2			
	社会活動入門	1	11	01	1	25	6	1前・1後		2			
	全学共通科目	英語コミュニケーションⅠ	1	11	02	1	25	7	1前	1			選択科目 23 科目から 4 単位以上履修すること。
		英語コミュニケーションⅡ	1	11	02	1	25	8	1後	1			
		韓国語コミュニケーションⅠ	1	11	02	1	25	9	1前			1	
		韓国語コミュニケーションⅡ	1	11	02	1	25	10	1後			1	
中国語コミュニケーションⅠ		1	11	02	1	25	11	1前		1			
中国語コミュニケーションⅡ		1	11	02	1	25	12	1後		1			
海外研修		1	11	02	1	25	13	1通		2			
スポーツ実技	1	11	02	1	25	14	1後		1				
心理学概論	1	11	02	1	25	15	1前		2				
生命倫理学	1	11	02	1	25	16	1後		1				
健康科学	1	11	02	1	25	17	1前	1					
教育学	1	11	02	1	25	18	1前		2				
哲学	1	11	02	1	25	19	1後		2				
現代史	1	11	02	1	25	20	1前		2				
東北の歴史	1	11	02	1	25	21	1後		2				
ジェンダー論	1	11	02	1	25	22	1前		2				
生活の中の物理学	1	11	02	1	25	23	1後		2				
生活の中の化学	1	11	02	1	25	24	1前		2				
生活の中の生物学	1	11	02	1	25	25	1前		2				
生活と地球科学	1	11	02	1	25	26	1後		2				
データサイエンス入門	1	11	02	1	25	27	1前	2					
コミュニケーション論	1	11	02	1	25	28	1前		2				
憲法と法律	1	11	02	1	25	29	1後		2				
生活と経済	1	11	02	1	25	30	1前		2				
教養としての政治学	1	11	02	1	25	31	1後		2				
自然科学	基礎物理学	1	11	02	1	25	32	1前	2				
	基礎化学	1	11	02	1	25	33	1前		2			
	基礎生物学	1	11	02	1	25	34	1前		2			
	線形代数学	1	11	02	1	25	35	1前	2				
	微積分学	1	11	02	1	25	36	1後	2				
	化学	1	11	02	1	25	37	1後	2				
	確率統計学	1	11	02	1	25	38	3前	2				
基礎科目の合計								15	52	0	21 単位以上修得すること。		
専門基礎科目	共通	基礎セミナー	1	11	03	1	25	39	1前	1		33 単位以上修得すること。	
		応用数学	1	11	03	2	25	40	2前	2			
	工学系	電気工学Ⅰ	1	11	03	2	25	41	1前	2			
		電気工学Ⅱ	1	11	03	2	25	42	1後	2			
		電気・電子・情報工学実験Ⅰ	1	11	03	2	25	43	1後	1			
		臨床工学概論	1	11	03	1	25	44	1後	2			
		情報処理工学	1	11	03	2	25	45	1後	2			
		電磁気学	1	11	03	2	25	46	2前	2			
		電子工学Ⅰ	1	11	03	2	25	47	2前	2			
		電子工学Ⅱ	1	11	03	2	25	48	2後		2		
		電気・電子・情報工学実験Ⅱ	1	11	03	2	25	49	2後		1		
		計測工学	1	11	03	2	25	50	2前	2			
		医療情報システム	1	11	03	2	25	51	2前		2		
		医用機械工学	1	11	03	2	25	52	2後	2			
		システム工学	1	11	03	2	25	53	3前		2		
	シミュレーション工学	1	11	03	2	25	54	3後		2			
	医学系	解剖生理学Ⅰ	1	11	03	2	25	55	1前	2			
		解剖生理学Ⅱ	1	11	03	2	25	56	1後	2			
		解剖生理学実習	1	11	03	2	25	57	2前	1			
		医学概論	1	11	03	2	25	58	1前	2			
公衆衛生学		1	11	03	2	25	59	1後	2				
臨床生化学		1	11	03	2	25	60	1後	2				
病理学概論		1	11	03	2	25	61	2前	2				
医学英語		1	11	03	2	25	62	3前		1			
臨床心理学		1	11	03	2	25	63	3後		2			
臨床免疫学		1	11	03	2	25	64	3後		2			
臨床薬理学		1	11	03	2	25	65	3後		2			
専門基礎科目の合計								33	16	0	33 単位以上修得すること。		

V 学部、学科案内

2025 年度以降入学者用

【工学部】【臨床工学科】

授業科目の名称			ナンバリング					配当年次	単位数			備考	
			学種	学科専攻	科目区分	難易度	カリキュラム年度		ナンバー	必修	選択		自由
専門科目	医用機器	医療安全管理学	1	11	04	2	25	66	1後	2			選択科目2科目から1単位以上修得すること。
		医用機器安全管理学	1	11	04	4	25	67	2前	2			
		医用機器安全管理学実習	1	11	04	4	25	68	2後		1		
		医用機器学概論	1	11	04	3	25	69	2前	2			
		人工臓器概論	1	11	04	3	25	70	2後		2		
		生体計測装置学	1	11	04	4	25	71	2前	2			
		生体計測装置学実習	1	11	04	4	25	72	2後		1		
		画像診断装置学	1	11	04	4	25	73	3前		2		
		医用治療機器学	1	11	04	4	25	74	3前		2		
		医用治療機器学実習	1	11	04	4	25	75	3後		1		
		臨床支援技術学	1	11	04	4	25	76	3前		2		
		臨床支援技術学実習	1	11	04	4	25	77	3後		1		
		生体物性工学	1	11	04	3	25	78	3前		2		
生体材料工学	1	11	04	3	25	79	3後		2				
機能代行		基礎血液浄化装置学	1	11	04	3	25	80	2前	2			
		血液浄化技術学Ⅰ	1	11	04	4	25	81	2後		1		
		血液浄化技術学Ⅱ	1	11	04	4	25	82	3前		1		
		血液浄化技術学実習	1	11	04	4	25	83	3前		1		
		基礎呼吸療法装置学	1	11	04	3	25	84	2後	2			
		呼吸療法技術学	1	11	04	4	25	85	3前		2		
		呼吸療法技術学実習	1	11	04	4	25	86	3後		1		
		基礎体外循環装置学	1	11	04	3	25	87	2後	2			
		体外循環技術学	1	11	04	4	25	88	3前		2		
		体外循環技術学実習	1	11	04	4	25	89	3後		1		
臨床系		医療関係法規	1	11	04	4	25	90	1後	2			
		臨床医学総論Ⅰ	1	11	04	4	25	91	2前	2			
		臨床医学総論Ⅱ	1	11	04	4	25	92	2後	2			
		臨床医学総論Ⅲ	1	11	04	4	25	93	3前		2		
		臨床医学総論Ⅳ	1	11	04	4	25	94	3後		2		
		臨床工学セミナーⅠ	1	11	04	4	25	95	2後	1			
		臨床工学セミナーⅡ	1	11	04	4	25	96	3後		1		
		臨床実習	1	11	04	4	25	97	4前		7		
		工学士特論	1	11	04	3	25	98	4後		1		
多職種連携		チーム医療福祉論	1	11	04	2	25	99	1後	1			
		保健医療福祉概論	1	11	04	3	25	100	2後		2		
		専門職連携論	1	11	04	3	25	101	3前		2		
		専門職連携セミナー	1	11	04	3	25	102	3後		1		
専門科目の合計									22	43	0	23 単位以上修得すること。	
研修科目		インターンシップ	1	11	07	4	25	103	1通		1		
		卒業研究入門	1	11	07	4	25	104	3後	1			
		卒業研究Ⅰ	1	11	07	4	25	105	4前	2			
		卒業研究Ⅱ	1	11	07	4	25	106	4後	2			
研修科目の合計									5	1	0	5 単位以上修得すること。	
臨床工学科の総合計									75	112	0	124 単位以上修得すること。	

区分	卒業要件単位数		
	必修	選択	
		区分別要件	区分問わず
基礎科目	15	6	※左記に加えて42単位以上
専門基礎科目	33	—	
専門科目	22	1	
研修科目	5	—	
小計	75	7	
合計	124		

※基礎科目、専門基礎科目、専門科目及び研修科目から、区分ごとに定められた最低単位数以上を修得した上で、残りは区分に関係なく42単位以上修得しなければならない。

II 修学案内

※ 履修登録画面から科目の表示が消えたことを確認したら、「登録」の場合と同様に「チェック」と「確定」を行ってください。

「チェック」及び「確定」を行うと「履修登録の取消し」が完了します。

【履修登録に関する注意点】

- ・毎年、履修登録期間終了後に「履修登録を忘れた」「履修登録漏れがありました」という相談が教務課窓口にあります。原則として、期間外の履修登録はできません。ご自身の成績や卒業・進級に影響がないように「登録したつもり」で終了せず、必ず確認を行ってください。
- ・スマートフォンで履修登録を行う場合もPC版の説明を参考にしてください。
- ・「他学部等開設授業科目」の履修登録については別途掲示等で連絡します。
- ・その他、履修登録に関する不明点等は履修登録期間内に教務課窓口にお問い合わせください。

3. 他学部履修について

(1) 概要

他学部履修とは、専門領域にとらわれない幅広い分野の中から、目的や興味に応じた学修を通して、より幅広い知識を修得することを目的として、他学科・他専攻において開放されている授業科目を履修することです。

なお、他学部履修で修得した単位については、学科・専攻により卒業に必要な単位として認定される場合があります。他学部履修を希望する場合は、以下の内容を確認して、所定の手続きを行ってください。

(2) 他学部履修対象科目

2025 年度以降入学者対象

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	医療のための基礎数学	1前	2
	現代国語表現	1前	2
	解剖学Ⅰ	1前	2
	生理学Ⅰ	1前	2
	理学療法概論	1前	2
	理学療法基礎演習Ⅰ	1前	1
	解剖学Ⅱ	1後	2
	生理学Ⅱ	1後	2
	臨床医学総論	1後	2
	理学療法基礎演習Ⅱ	1後	1
	救命救急学演習	2後	1
統計解析	4前	1	
リハビリテーション学科 (作業療法専攻)	作業療法概論	1前	2
	基礎作業学	1前	1
リハビリテーション学科 (言語聴覚専攻)	言語聴覚障害学総論	1前	2
リハビリテーション学科 (視覚機能学専攻)	眼の解剖としくみⅠ	1前	1
	生活の中の視覚	1前	1
	生理光学Ⅰ	1前	1
	基礎眼光学	1前	1
	眼の解剖としくみⅡ	1後	1
	生理光学Ⅱ	1後	1
	ロービジョン学Ⅰ	2後	1
看護学科	成人看護学概論	1後	1
	老年看護学概論	2前	1
	地域・在宅看護学概論	2後	1
現代社会学科	夏季野外活動実習	1前	1
	アダプテッド・スポーツ基礎実習	1前	1
	現代社会と人間	1前	2
	文化人類学	1前	2
	現代社会と福祉	1前	2
	心理学と心理的支援	1前	2
	社会学と社会システム	1前	2
	冬季野外活動実習	1後	1
	アダプテッド・スポーツ論	1後	2
	レクリエーション理論	1後	2
	社会福祉政策	1後	2
	社会学史	1後	2
	生涯発達心理学	2前	2
	社会保障Ⅰ	2前	2
	レクリエーション実技Ⅰ	2前	1
	健康心理学	2後	2
	社会保障Ⅱ	2後	2
	レクリエーション実技Ⅱ	2後	1
	レクリエーション現場実習	2通	1
	社会心理学	3前	2
	地域社会健康論	3前	2
	コミュニティ心理学	3後	2
	地域社会健康演習	3後	2
現代社会学科 (社会学専攻)	労働と社会	2前	2
	情報技術と社会	2前	2
	スポーツと社会	2前	2
	地域文化論	2前	2
	メディア社会論	2後	2
	家族社会学	2後	2
	都市社会学	2後	2
現代社会学科 (社会福祉専攻)	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2前	2

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数	
現代社会学科 (社会福祉学専攻)	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前	2	
	障害者福祉	2前	2	
	児童・家庭福祉	2前	2	
	高齢者福祉	2前	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2後	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2後	2	
	障害者支援論	2後	2	
	児童・家庭支援論	2後	2	
	高齢者支援論	2後	2	
	経営法学科	経営学概論	1前	2
		経営・経済事情	1前	2
		統計・数理入門	1前	2
		マーケティング論	1後	2
ミクロ経済学		1後	2	
簿記論Ⅰ		1後	4	
民法総則		1後	2	
経営・経済のための数学		1後	2	
経営戦略論		2前	2	
マクロ経済学		2前	2	
簿記論Ⅱ		2前	2	
契約法		2前	2	
物権法		2前	2	
刑法		2前	2	
統計学		2前	2	
英語コミュニケーションⅢ		2前	1	
フィールドワーク英語Ⅰ		2前	1	
中国語コミュニケーションⅢ		2前	1	
韓国語コミュニケーションⅢ		2前	1	
流通論		2前	2	
中小企業論		2前	2	
マーケティング戦略論		2前	2	
財務会計Ⅰ		2前	2	
簿記論Ⅲ		2後	2	
英語コミュニケーションⅣ		2後	1	
フィールドワーク英語Ⅱ		2後	1	
中国語コミュニケーションⅣ		2後	1	
韓国語コミュニケーションⅣ		2後	1	
経営組織論		2後	2	
経営史		2後	2	
マーケティングリサーチ	2後	2		
ファイナンシャル・プランニング (FP) 論	2後	2		
財務会計Ⅱ	2後	2		
金融論	2後	2		
財政学	2後	2		
不法行為法	2後	2		
家族法	2後	2		
消費者法	2後	2		
組織行動論	3前	2		
ビジネスケース分析	3前	2		
グローバルマーケティング	3前	2		
管理会計	3前	2		
国際経済学	3前	2		
会社法	3前	2		
不動産法	3前	2		
行政法総論	3前	2		
経済法	3前	2		

II 修学案内

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
経営法学科	国際取引法	3前	2
	医療福祉経済論	3前	2
	地域医療マネジメントⅠ	3前	2
	社会保障論	3前	2
	韓国研究	3前	2
	経営情報論	3後	2
	アントレプレナーシップ論	3後	2
	消費者行動入門	3後	2
	コーポレート・ファイナンス論	3後	2
	地域経済論	3後	2
	労働法	3後	2
	知的財産権法	3後	2
	行政救済法	3後	2
	民事手続法	3後	2
	行政学	3後	2
	医療政策論	3後	2
	地域医療マネジメントⅡ	3後	2
多文化共生論	3後	2	
中国研究	3後	2	
アメリカ研究	3後	2	
知能情報システム学科	プログラミング方法論Ⅰ	1後	2
	プログラミング方法論Ⅱ	2前	2
	電子工学概論	2前	2
	コンピュータネットワーク	2前	2
	人工知能Ⅰ	2前	2
	オブジェクト指向プログラミング	2後	2
	ロボット工学	2後	2
	マルチメディア工学	2後	2
ソフトウェア工学	3後	2	

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
建築環境学科	建築史	1前	2
	建築インテリア製図Ⅰ	1前	2
	建築探究	1前	2
	建築環境学A	1前	2
	建築計画Ⅰ	1後	2
	建築環境工学Ⅰ	1後	2
	構造力学Ⅰ	1後	2
	建築インテリア製図Ⅱ ※1	1後	2
	建築環境学B	1後	2
	構造力学Ⅱ ※2	2前	2
	建築構法Ⅰ	2前	2
	建築計画Ⅱ	2前	2
	建築環境工学Ⅱ	2前	2
	建築環境学演習Ⅰ	2前	2
	建築法規Ⅰ	2後	2
	建築構法Ⅱ	2後	2
臨床工学科	インテリア環境Ⅰ	2後	2
	建築設備Ⅰ	2後	2
	建築環境学演習Ⅱ	2後	2
	居住福祉論	3後	2
	医用機器安全管理学	2前	2
	医用機器学概論	2前	2
	基礎血液浄化装置学	2前	2
	人工臓器概論	2後	2
基礎呼吸療法装置学	2後	2	
基礎体外循環装置学	2後	2	

※1 「建築インテリア製図Ⅰ」の単位修得者のみ履修可能

※2 「構造力学Ⅰ」の単位修得者のみ履修可能

2022年度から2024年度入学者対象

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
リハビリテーション学科 (共通)	現代国語表現	1前	2
	生命倫理	1前	1
	基礎化学	1前	2
	基礎生物学	1前	2
	心理学	1後	2
	基礎数学	1後	2
	統計解析	1後	2
	臨床医学総論	1後	2
	救命救急学演習	1後	1
リハビリテーション学科 (理学療法専攻)	理学療法概論	1前	2
	理学療法基礎演習Ⅰ	1前	1
	理学療法基礎演習Ⅱ	1後	1
リハビリテーション学科 (作業療法専攻)	作業療法概論	1前	2
	基礎作業学	1前	1
リハビリテーション学科 (言語聴覚専攻)	言語聴覚障害学概論	1前	2
看護学科	看護学概論Ⅰ	1前	2
	成人看護学概論	1後	1
	公衆衛生看護学概論	1後	2
	老年看護学概論	2前	1
	小児看護学概論	2前	1
	母性看護学概論	2前	1
	精神看護学概論	2前	1
	在宅看護学概論	2後	1
現代社会学科	心理学と心理的支援	1前	2
	文化人類学	1前	2
	夏季野外活動実習	1前	1
	アダプテッド・スポーツ基礎実習	1前	1
	現代社会と人間	1前	2

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
現代社会学科	現代社会と福祉	1前	2
	社会学と社会システム	1前	2
	教育学	1後	2
	冬季野外活動実習	1後	1
	アダプテッド・スポーツ論	1後	2
	レクリエーション理論	1後	2
	社会福祉政策	1後	2
	社会学史	1後	2
	生涯発達心理学	2前	2
	社会保障Ⅰ	2前	2
	レクリエーション実技Ⅰ	2前	1
	健康心理学	2後	2
	社会保障Ⅱ	2後	2
	障害者支援論	2後	2
	高齢者支援論	2後	2
	児童・家庭支援論	2後	2
	レクリエーション実技Ⅱ	2後	1
	レクリエーション現場実習	2通	1
	社会心理学	3前	2
	介護予防論	3前	2
復興のまちづくり	3後	2	
コミュニティ心理学	3後	2	
現代社会学科 (社会学専攻)	地域社会学	2前	2
	都市社会学	2前	2
	メディア社会学	2前	2
	地域文化論	2前	2
	情報社会論	2後	2
家族社会学	2後	2	
東北文化論	3前	2	

II 修学案内

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数
現代社会学科 (社会福祉学専攻)	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2前	2
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2前	2
	障害者福祉	2前	2
	児童・家庭福祉	2前	2
	高齢者福祉	2前	2
	保健医療と福祉	2前	2
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2後	2
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2後	2
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2後	2
	生活支援工学	2後	2
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3前	2
	貧困に対する支援	3前	2
	医療ソーシャルワーク論	3前	2
	医療福祉マネジメント論	3後	2
経営法学科	現代史	1前	2
	芸術論	1前	2
	文化人類学	1前	2
	文学	1前	2
	宗教学	1前	2
	倫理学	1前	2
	特別講座Ⅰ	1前	2
	法学概論	1前	2
	経済学概論	1前	2
	経営学概論	1前	2
	現代思想	1後	2
	コミュニケーション論	1後	2
	東北の歴史	1後	2
	特別講座Ⅱ	1後	2
	憲法	1後	2
	ミクロ経済学	1後	2
	民法総則	1後	2
	環境論入門	1後	2
	簿記論Ⅰ	1後	4
	政策基礎数理Ⅰ	1後	2
	マーケティング論	1後	2
	政治学	2前	2
	刑法	2前	2
	マクロ経済学	2前	2
	社会保障概論	2前	2
	地域文化論	2前	2
	財務会計Ⅰ	2前	2
	簿記論Ⅱ	2前	2
	政策基礎数理Ⅱ	2前	2
	統計学	2前	2
	流通論	2前	2
	契約法	2前	2
	物権法	2前	2
	経営戦略論	2前	2
	国際関係論	2後	2
	財務会計Ⅱ	2後	2
	家族法	2後	2
	財政学	2後	2
	金融論	2後	2
	経営組織論	2後	2
	持続的農業論	2後	2
	消費者法	2後	2
	経営史	2後	2
	現代のマーケティング	2後	2
	流通政策	2後	2
	会社法	3前	2
行政法総論	3前	2	

開講学科・専攻	科目名	配当	単位数	
経営法学科	行政学	3前	2	
	非営利組織論	3前	2	
	不動産法	3前	2	
	管理会計	3前	2	
	国際経済学	3前	2	
	医療福祉経済論	3前	2	
	グリーンツーリズム論	3前	2	
	韓国研究	3前	2	
	東北文化論	3前	2	
	中小企業論	3前	2	
	ロジスティック論	3前	2	
	消費者行動入門	3前	2	
	企業福祉論	3前	2	
	医療管理学Ⅰ	3前	2	
	労働法	3後	2	
	行政救済法	3後	2	
	知的財産権法	3後	2	
	地域行政論	3後	2	
	国際経営論	3後	2	
	地方財政論	3後	2	
起業論	3後	2		
経営情報論	3後	2		
中国研究	3後	2		
多文化共生論	3後	2		
東北の民俗	3後	2		
アメリカ研究	3後	2		
アグリビジネス論	3後	2		
地域経済論	3後	2		
医療政策論	3後	2		
医療管理学Ⅱ	3後	2		
知能情報システム学科	基礎物理学	1前	2	
	物理学	1後	2	
	電気工学概論	1後	2	
	プログラミング方法論Ⅰ	1後	2	
	基礎化学	2前	2	
	基礎生物学	2後	2	
	マルチメディア工学	2後	2	
	建築環境学科	基礎物理学	1前	2
		基礎化学	1前	2
建築計画Ⅰ		1前	2	
インテリア環境Ⅰ		1前	2	
基礎生物学		1後	2	
建築構法Ⅰ		1後	2	
建築法規Ⅰ		1後	2	
建築環境工学Ⅰ		1後	2	
構造力学Ⅰ		1後	2	
建築環境学入門Ⅱ		1後	2	
健康インテリアⅠ		2前	2	
建築構法Ⅱ		2前	2	
建築環境工学Ⅱ		2前	2	
建築法規Ⅱ		2前	2	
構造力学Ⅱ		2前	2	
建築アメニティ論		2前	2	
建築史		2後	2	
インテリア環境Ⅱ	2後	2		
建築計画Ⅱ	2後	2		
建築設備Ⅰ	2後	2		
建築設備Ⅱ	2後	2		
建築環境技術論	2後	2		
臨床工学科	医用機器安全管理学	2前	2	

東北文化学園大学教務委員会規程

「平成11年3月10日」

「理事会制定」

(設置)

第1条 東北文化学園大学に、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 授業及び試験に関する事項
- (3) その他教務に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 原則として各学科・専攻の教授又は准教授から選出された教員 各1人
- (3) 事務局長から指名された事務局職員 若干人

(委員長)

第4条 委員長は、教務部長をもって充てる。

2 委員長が欠けたとき又は委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員の委嘱)

第5条 第3条第2号及び第3号の委員は、学長が委嘱する。

(委員の任期)

第6条 第3条第2号及び第3号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(開催)

第7条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(意見の聴取)

第8条 議長は、必要に応じ委員会の承認を得て、委員以外の教職員を出席させ、意見を聴くことができる。

(審議事項の報告)

第9条 委員長は、第2条に定める審議事項の審議結果について、速やかに大学運営会議に報告しなければならない。

(専門委員会の設置)

第10条 専門的な事項について調査審議する必要があるときは、委員会に専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、委員会に諮って、学長が委嘱する。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、教務課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。

(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年5月11日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成19年4月4日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2021年4月28日から施行し、2021年4月1日から適用する。

東北文化学園大学自己点検及び自己評価規程

「平成11年3月10日」

「理事会制定」

(趣旨)

第1条 この規程は、東北文化学園大学学則第2条第2項及び東北文化学園大学大学院学則第3条第2項の規定に基づき、東北文化学園大学(以下「大学」という。)及び東北文化学園大学大学院(以下「大学院」という。)の自己点検及び自己評価(以下「点検及び評価」という。)の組織並びに運営について定めるものとする。

(点検及び評価の基本方針)

第2条 点検及び評価の基本方針は、次のとおりとする。

- (1) 教育研究の自由を尊重しつつ、大学及び大学院の使命実現と本学教職員の意欲を高めるために行うこと。
- (2) 社会に対して、教育研究活動等の状況を説明できるものであること。
- (3) 専門的な知見を基礎とし、公正かつ客観的で信頼性の高い評価を行うこと。
- (4) 評価の方法及び指標については、継続的に調査研究を行い、その改善に努めること。

(点検及び評価の基本事項)

第3条 点検及び評価の基本事項は、次のとおりとする。

- (1) 教育活動に関する事項
- (2) 研究活動に関する事項
- (3) 社会貢献に関する事項
- (4) 大学及び大学院の運営に関する事項
- (5) その他点検及び評価に関し必要な事項

(自己点検及び自己評価運営委員会)

第4条 点検及び評価を行うため、自己点検及び自己評価運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる事項を行う。

- (1) 大学各学部及び大学院研究科の点検及び評価の結果の総括調整に関する事項

- (2) 大学及び大学院の点検及び評価の実施結果のとりまとめに関する事項
- (3) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第109条に規定する認証評価機関が行う検証及び評価に関する事項
- (4) 学校法人東北文化学園大学自己点検・自己評価委員会(以下「点検評価委員会」という。)への報告に関する事項
- (5) その他点検及び評価に関し必要な事項
(組織)

第5条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 研究科長
- (3) 各学部長
- (4) 学生部長
- (5) 教務部長
- (6) 総合情報センター長
- (7) 基礎教育センター長
- (8) 地域連携センター長
- (9) 大学事務局長
- (10) その他学長が必要と認めた者
(委員長及び副委員長)

第6条 委員長は、学長をもって充てる。

- 2 委員会に副委員長を置き、学長が指名するものとする。
- 3 委員長は、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長に事故あるとき、その職務を代行する。

(実施委員会)

第7条 教育研究活動、学生サービス、教学事務等の専門の事項を点検及び評価するために、各学部、研究科、大学事務局及び法人事務局に、自己点検及び自己評価実施委員会(以下「実施委員会」という。)を置く。

- 2 実施委員会は、必要に応じて作業部会を置くことができる。
- 3 実施委員会の組織その他必要な事項は各学部、研究科、大学事務局及び法人事務局で定める。

(点検及び評価の項目)

第8条 運営委員会は、第3条に規定する基本事項について、具体的な点検及び評価の項目を定めるものとする。

2 実施委員会は、各学部、研究科、大学事務局及び法人事務局固有の項目を定めることができる。

(点検及び評価の実施)

第9条 点検及び評価の実施は、前条に規定する点検及び評価の項目に基づき、実施委員会が行う。

(点検及び評価の結果)

第10条 実施委員会は、点検及び評価の経過並びにその結果をとりまとめ、自己点検・自己評価報告書を作成し、運営委員会に報告するものとする。

2 運営委員会は、前項により報告された自己点検・自己評価報告書を精査し、毎年、点検評価委員会に報告するものとする。

(点検及び評価の結果の公表)

第11条 運営委員会は、理事会において決定された自己点検・自己評価報告書を速やかにホームページ等で広く公表する。

(外部評価)

第12条 点検及び評価の結果について第三者の意見を得る等の学外者による検証及び第三者機関による外部評価を受けるよう努めるものとする。

(点検及び評価の結果の反映)

第13条 学長、研究科長、各学部長、大学事務局長及び法人事務局長は、運営委員会から報告された点検及び評価の結果に基づき、改善が必要と認められるものについて、各学部、研究科、大学事務局及び法人事務局の将来的な計画に反映されるよう努めるものとする。

(庶務)

第14条 運営委員会に関する庶務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、点検及び評価の組織並びに運営に関し必要な事項は、大学運営会議の議を経て、学長が別に定める。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、学長の意見を聞いて、理事会が行う。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年6月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月4日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年6月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年1月30日から施行する。

附 則

この規程は、2021年6月29日から施行する。

大学等名	東北文化学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	東北文化学園大学 AI教育プログラム（リテラシーレベル）	申請年度	令和7年度

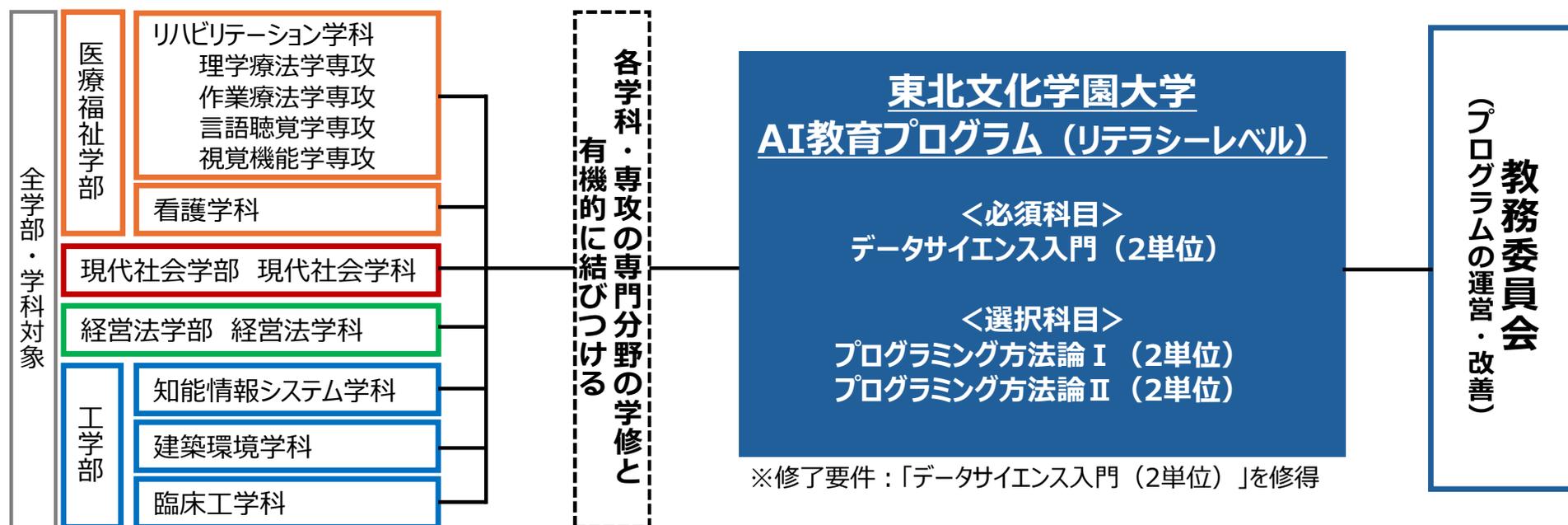
東北文化学園大学 AI教育プログラム（リテラシーレベル） 取組概要

プログラムの目的

本教育プログラムは、現代の高度な情報社会に対応するため、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的知識を身につけ、データを活用した意思決定や課題解決に貢献できる人材を育成することを目的とする。

身に付けられる能力

- (1) AIによって変化する現実を理解できる。
- (2) データ・AIがどのような技術で活用されているかを理解できる。
- (3) データを読み取り、理解する方法を修得できる。
- (4) データ・AIを活用する際に留意すべきことを理解できる。



プログラムの特色

- 「データサイエンス入門（必須）」では、本学教員が監修したMDASHリテラシーレベルに準拠した教科書を使用し、基礎から体系的に学べる環境を整えている。
- データ分析等の演習では、各学科・専攻の専門分野に関連する実データを活用し、社会で実際に用いられている分析手法を体験することで、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を実感できる。
- 選択科目としてプログラミング関連科目を配置し、プログラム開発工程の概要を理解する力を養うことができる。

